

第 18 回

教育システム改善のためのアンケート調査報告書

令和 5 年 5 月

有明工業高等専門学校
自己点検・評価委員会

目次

1. まえがき	1
2. アンケート結果およびその分析	2
2.1 令和3年度の5年生卒業時アンケート	2
2.2 令和3年度の専攻科修了時アンケート	7
2.3 令和4年度の新入生アンケート	9
2.4 令和4年度の4年次編入生アンケート	13
2.5 令和4年度の専攻科入学生アンケート	17
2.6 令和4年度 教職員アンケート	19
2.7 令和4年度の5年生卒業時アンケート	23
2.8 令和4年度の専攻科修了時アンケート	28
2.9 令和5年度の新入生アンケート	30
2.10 令和5年度の4年次編入生アンケート	35
2.11 令和5年度の専攻科入学生アンケート	40
3. あとがき	42

別様 アンケート内容と集計結果

- 別様1 5年生卒業時アンケート（令和4年1月実施）
- 別様2 専攻科修了時アンケート（令和4年1月実施）
- 別様3 新入生アンケート（令和4年3月実施）
- 別様4 4年次編入生アンケート（令和4年3月実施）
- 別様5 専攻科入学生アンケート（令和4年3月実施）
- 別様6 教職員アンケート（令和4年4月実施）
- 別様7 5年生卒業時アンケート（令和5年1月実施）
- 別様8 専攻科修了時アンケート（令和5年1月実施）
- 別様9 新入生アンケート（令和5年3月実施）
- 別様10 4年次編入生アンケート（令和5年3月実施）
- 別様11 専攻科入学生アンケート（令和5年3月実施）

1. まえがき

本校では、教育理念に基づいて設定された学習・教育到達目標を達成できるように教育プログラムを設計・作成し、日々の教育活動を展開しています。この教育プログラムに沿って教育を実践している本校の教育システム(教育体制)は、常時、点検・評価を行い、その結果を検討・分析し、継続的に改善を施し、向上させて行く必要があります。

自己点検・評価委員会(以下、本委員会)では、本校の教育システムの点検、分析そして改善・向上の一環として、6種類のアンケート(一部隔年)を実施しています。卒業・修了直前の本科5年生・専攻科2年生、新入生、4年次編入生、OB・OG(本校卒業生)、企業および大学・大学院(本校卒業生の就職先・進学先)へのアンケートの6種類です。アンケート結果の集計、分析、改善点に関しては「教育システム改善のためのアンケート調査報告書」(以下、調査報告書)として報告しています。過去17回あり、過去の調査報告書の内容に関しては本校ホームページに公開していますので、詳細はそちらにゆずるとして、過去17回の報告書では、当該年度の後半または次年度に調査報告書が完成・開示する傾向があり、本校の教育プログラムの改善材料としてはデータが古い傾向にありました。このことから、令和3年度の卒業生、修了生および令和4年度の入学生(本科1年生、4年次編入学生、専攻科生)に関しては令和4年6月に調査報告書Ⅰとして、卒業・修了生の状況、新入生の状況を運営会議に報告しました。令和4年度に関しては、平成30年度から実施されていなかった教職員へのアンケートを実施しました。本調査報告書では、本校ホームページでの公開を前提に第18回調査報告書Ⅰの内容(令和3年度に調査を行ったものの第17回の調査報告書で未報告の令和3年度本科卒業生、専攻科修了生と令和4年度入学生のアンケート結果)に教職員アンケート、令和4年度の本科卒業生および専攻科修了生のアンケート結果、令和5年度の本科入学生、4年次編入学生、専攻科入学生のアンケート結果の集計、分析、改善点を加えたものを報告いたします。令和4年度の本科卒業生および専攻科修了生のアンケート結果、令和5年度の本科入学生、4年次編入学生、専攻科入学生のアンケート結果に関しては、非常にホットな情報であることから、本校の教育システムの点検、分析そして改善・向上に活かしていただけたと思います。

表1 第18回のアンケート実施・分析状況一覧

分析回	調査年度	実施時期	アンケート対象	報告年月	備考
第18回	令和3年度	令和4年1月	R3年度専攻科修了生	R5(2023)年 5月	自己点検・ 評価委員会
		令和4年2月	R3年度本科卒業生		
		令和4年3月	R4年度新入生		
		令和4年3月	R4年度4年次編入生		
		令和4年3月	R4年度専攻科入学生		
	令和4年度	令和4年4月	教職員		
		令和5年1月	R4年度本科卒業生		
		令和5年1月	R4年度専攻科卒業生		
		令和5年3月	R5年度新入生		
		令和5年3月	R5年度4年次編入生		
		令和5年3月	R5年度専攻科入学生		

2. アンケート結果およびその分析

2.1 令和3年度の5年生卒業時アンケート

平成28年4月に改組が行われ5学科体制から、創造工学科(1学科6コース体制)となり、令和3年度の卒業生は創造工学科の2期生となる。表2-1-1に過去4年間の5年生卒業時アンケートの実施状況を示す。本アンケートは2月に電子メールでアンケートの依頼を行い、google Forms を利用して実施しており、令和3年度の回答率は93%であった。実施方法については問題無いと思われる。

表2-1-1 過去4年間の5年生卒業時アンケートの実施状況(参考)

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
平成30年(2018)度	平成31年2月	191	186	97
平成31年度(2019) (令和元年度)	令和2年2月	199	117	59 (新型コロナウイルスの影響)
令和2年(2020)度	令和3年3月	183	176	96
令和3年(2021)度	令和4年1月	203	195	93

※ 以下のコメントではコース名であるエネルギー(E)、応用化学(C)、環境生命(L)、メカニクス(M)、情報システム(I)、建築(A)と略記する。

教育システムに関する分析として、創造工学科卒業生である令和2年度と令和3年度の比較等することとした。以下の表において、網掛けは各年度で全コースの平均から10ポイント以上低い場合は数値を網掛けしその右肩に①、高い場合は数値を網掛けしその右肩に②を付し、令和3年度のパーセンテージが令和2年度から10ポイント以上上昇した場合は数値右横に↑、下降した場合は数値右横に↓を付した。なお、令和2年度のアンケートにおいて、応用化学コース、環境生命コースを混合して実施しており、アンケートの改善を行った。また、令和2年度(CとLの合算)、令和3年度(C、L別々)の比較においては、令和3年度のCとLの平均が令和2年度のパーセンテージから10ポイント以上上昇(下降)したとき、両コースに矢印を付すこととした。

A: 回答者自身に関する設問

【設問1】所属コース

令和2年度において、5年生は4月時点で209名が在籍しており、203名(旧学科学生1名を含む)が卒業している。一方、令和3年度において、教務係による統計では、平成29年4月入学時の学生数は216名、平成31年4月に3年次に留学生2名(C1, A1)、令和2年4月に4年次編入学生9名(C1, M1, I5, A2)が加わっている。最終的に、令和3年度の5年次学生の基本的全学生数は227名であり、その内の89%(203名)の学生が卒業していることになる。

「卒業率」で比較すると、令和2年度の77%より10ポイント程度高くなっている。5学科体制時からおおむね80~90%であり、5学科時から同様の状況である。

【設問2】卒業後の進路

卒業生回答者の約68%(132名)が就職で、令和2年度の65%より3ポイント程度高く(平成31年度の73%より5ポイント程度低く)なっている。進学は約31%(61名)であり、令和2年度の30%(平成31年度の28%とほぼ同程度)であった。そのうち大学3年次編入学に14%(28名)、専攻科に16%(31名)の学生が進学しており、令和2年度の14%、16%(平成31年度の10%、19%)と同程度の状況である。

B: 教育全般の総括の評価に関する設問

【設問3~6】一般教育、専門教育、研究設備・学習環境、ICT環境・活用の満足度について

表2-1-2に有明高専における教育全般の満足度に関するアンケートの結果を示す。表中のパーセンテージは「満足している」と「おおむね満足している」の合計である。令和3年度には網掛けのコースはなく、各コースでのばらつきが少ないことがわかる。令和2年度では全コースの平均値から10ポイント以上低いことから「今後の動向を注視する必要がある」と記したコースがあったが、令和3年度では無くなっている。また、Iコース平均は令和2年度より全4項目で10ポイント以上増加、M、Eコースでは3項目で10ポイント以上増加している。また、ICT環境は全コース平均値で25ポイントの増加であった。今後の状況を注視し

ていく必要がある。また、この傾向が持続するようであれば、E、M、Iの各コースではこれらの項目の急上昇の原因に関して検討し、検討結果を全体へ開示・情報共有することが望まれる。

表 2-1-2 教育における満足度調査のアンケート結果 (%)

	一般教育		専門教育		教育設備・学習環境		ICT環境・活用	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2
E	93	94	98↑	88	98↑	88	98↑	76
C	95	97	90	95	95	97	95↑	78
L	100		89		96		89↑	
M	95	97	100↑	86	92	89	87↑	64
I	100↑	79°	97↑	83	100↑	76°	95↑	48°
A	90	94	90	88	90	81	94↑	69
平均	96	93	95	89	95	87	93↑	68

【(設問 7~9) 図書館資料とその活用, 期待していた実力の修得, 教育研究の成果の満足度について】

今年度から新たに設けた設問である図書館資料とその活用, 期待していた実力の修得, 教育研究の成果の満足度に関するアンケートの結果を表 2-1-3 に示す。表中のパーセンテージは「満足している」と「おおむね満足している」の合計である。

図書館資料とその活用は全コース平均値で 90%を越えており, 良好な状況と考えられる。なお, M コースのみ 82%と低い状況であり, 今後の状況を注視する必要がある。

期待していた実力の修得の満足度は全コース平均値で 90%を越えており, 良好な状況と考えられる。

教育・研究の成果の満足度は全コース平均値で 90%を越えており, 良好な状況と考えられる。なお, L コースのみ 78%と低い状況であり, 今後の状況を注視する必要がある。

表 2-1-3 図書館資料とその活用, 期待していた実力修得, 教育研究成果の満足度のアンケート結果 (%)

	図書館		期待した実力修得		教育研究成果	
	R3	—	R3	—	R3	—
E	88	—	90	—	93	—
C	100	—	100	—	95	—
L	96		89		78°	
M	82°	—	90	—	92	—
I	100	—	95	—	95	—
A	97	—	90	—	87	—
平均	93	—	92	—	90	—

C: 学習・教育到達目標について

【(設問 10~18)】

表 2-1-4, 5, 6 に有明高専における学習・教育到達目標が身に付いたかに関するアンケートの結果を示す。表中のパーセンテージは「身に付いた」と「おおむね身に付いた」の合計である。なお, 令和 2 年度のパーセンテージとしては学習・教育到達目標の到達度の値を用いている。

令和 3 年度では A-3 を除く項目を除いて, 全コース平均値で 90%を越えており (令和 2 年度は全項目で 85%を越えていた), A-3 を除く項目で学習・教育到達目標は「(おおむね) 身に付いた」と考えられる。しかし, A-3 (コミュニケーション能力) のみが令和 2 年度に比べ全コース平均値で 12 ポイント低くなったことから, A-3 は今後の状況を注視する必要がある。なお, 令和 2 年度は I コースのみが 79%と他のコースに比べて低かったが, 令和 3 年度では全体が下がっている状況で I コースのみが 92%と上昇しており, 全コース平均値を大きく上回っている。この傾向が持続するようであれば, I コースでは A-3 項目の回答が良い原因に関して検討し, 検討結果を全体へ開示・情報共有することが望まれる。また, 令和 3 年度では L コースのみが, A-1 (多面的考察力) で全コース平均より 14 ポイント低くなったことから, 今後の状況を注視する必要がある。

表 2-1-4 学習・教育到達目標(A：豊かな教養と国際性)が身に付いたかのアンケート結果 (%)

	A-1		A-2		A-3	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2
E	90	94	93	94	73 ↓	91
C	100	89	95	97	76 ↓	92
L	78°		89		70 ↓	
M	95	86	90	91	74 ↓	89
I	92	83	100	93	92° ↑	79°
A	94	91	94	94	77 ↓	92
平均	92	89	93	94	77 ↓	89

表 2-1-5 学習・教育到達目標(B：専門知識と学際性)が身に付いたかのアンケート結果 (%)

	B-1		B-2		B-3		B-4	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2
E	93	85	85	88	88	88	88	88
C	100	97	95	97	95	95	100	86
L	85		89		82		85	
M	95	91	95	89	95	89	95	86
I	95	86	89	86	92	90	92	94
A	90	97	90	97	90	97	94	88
平均	93	91	90	91	90	91	92	88

表 2-1-6 学習・教育到達目標(C：創造性とデザイン能力)が身に付いたかのアンケート結果 (%)

	C-1		C-2	
	R3	R2	R3	R2
E	85	91	85	85
C	95	92	100	86
L	85		89	
M	98	91	95	86
I	95	83	81	86
A	94	94	94	97
平均	92	90	90	88

D：その他

【(設問 19, 20) シラバスに関する設問】

シラバスの利用に関するアンケート結果を表 2-1-7 に示す。表中のパーセンテージは、「シラバス利用」では「利用した」と「それなりに利用した」の合計、「シラバスの利用状況をもとにした授業改善」では「見られた」と「それなりに見られた」の合計である。

シラバスの利用に関して、全コースの平均値はほぼ同じであり、各コースでの違いもほとんどなかった。また、昨年度からの変化もほとんどない状況であった。

今年度から設けた設問であるシラバスの利用状況をもとにした授業改善に関して、全コース平均値で 87% であった。C および L コースで 76%、70% と低い状況であり、今後の状況を注視する必要がある。

表 2-1-7 シラバスに関するアンケート結果 (%)

	シラバス利用		シラバスと授業改善	
	R3	R2	R3	
E	75	82	90	
C	76	84	76°	
L	82		70°	
M	85	80	87	
I	87	83	95	
A	81	84	93	
平均	81	82	87	—

【(設問 21, 22) TOEIC 関連の設問】

TOEIC 関連のアンケート結果を表 2-1-8 に示す。表中のパーセンテージは、「役に立った」と「おおむね役に立った」の合計である。

TOEIC 関連の授業の役立ちの設問に関して、全コース平均値で 72 %であった。I コースで 92%と平均値より 20 ポイント高い値であるのに対し、L, A コースで 59 %, 58 %と 10 ポイント以上低い値であった。単年度の状況で判断はできないが、今後の動向を注視すると同時に、学校で実施している TOEIC 関連の試験結果を活用・総合して、今後の対応を英語関連の教員、教務主事室、運営会議で議論を進めていただくことが望ましい。

TOEIC 一斉試験が役に立ったかの設問に関して、全コース平均値で 81 %であった。A コースで 68 %と 10 ポイント以上低い値であった。A コースは「TOEIC 関連の授業が役に立ったか」でも低い値であったことから、今後の動向を注視していく必要がある。この傾向が持続するようであれば、A コースでの TOEIC 関連の授業内容、TOEIC 一斉試験に関して検討し、検討結果を全体へ開示・情報共有することが望まれる。

表 2-1-8 TOEIC に関するアンケート結果 (%)

	授業の役立ち		一斉試験について	
	R3	—	R3	—
E	73	—	80	—
C	71	—	90	—
L	59 [⊖]		73	
M	72	—	87	—
I	92 [⊖]	—	89	—
A	58 [⊖]	—	68 [⊖]	—
平均	72	—	81	—

【(設問 23-27) レポートのフィードバック、授業時間外の学習指導、授業改善アンケートとその授業改善への反映、学修単位の時間外学修の評価、進路支援について】

令和 2 年度との比較ができるレポートのフィードバック、授業時間外の学習指導、授業改善アンケートと授業改善、進路支援に関するアンケート結果を表 2-1-9、令和 3 年度から行った「学修単位の時間外学修の評価」のアンケート結果を表 2-1-10 に示す。各表のパーセンテージは 4 択のうち上位 2 つ、例えば「レポートのフィードバック」では「適正」と「おおむね適正」の合計である。

表 2-1-9 レポートのフィードバック、授業時間外学習指導、授業改善アンケートと授業改善、進路支援に関するアンケート結果 (%)

	レポート		授業時間外学習指導		授業改善アンケート		進路支援	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2
E	95	94	95	88	88	82	95	91
C	95	86	100	100	76 [⊖]	81	100	95
L	74 [⊖]		89		78		100	
M	92 [↑]	73 [⊖]	100	96	92	73	92	93
I	89	83	100	100	95	72	97	97
A	94	91	97	97	84	75	87	97
平均	90	85	97	96	87 [↑]	77	95	94

表 2-1-10 学修単位の授業外学修の評価に関するアンケート結果 (%)

	学修単位の評価	
	R3	—
E	95	—
C	90	—
L	85	
M	90	—
I	100	—
A	94	—
平均	93	—

レポートのフィードバックに関して、全コース平均値では令和2年度から大きな変化ないが、Lコースのみ全コース平均値より15ポイント以上低いことから、今後の状況を注視する必要がある。また、令和2年度の全コース平均値より10ポイント以上低かったMコースが令和3年度で20ポイント近く上昇しており、今後の状況を注視する必要がある。

授業時間外の学習指導に関して、全コース平均値で令和2年度から大きな変化がなく、各コースのばらつきもない状況であった。

授業改善アンケートとその授業改善への反映に関して、全コース平均値は令和2年度から10ポイント上昇した。今後の状況を注視する必要がある。また、Cコースのみ、全コース平均値より10ポイント以上低い値であった。今後の状況を注視する必要がある。

今年度から設けた学修単位の授業時間外学修の評価に関して、全コース平均値は87%であり、各コースのばらつきもない状況であった。

進路支援に関して、全コース平均値で令和2年度から大きな変化がなく、各コースのばらつきもない状況であった。

【(設問 28-29) 成績評価・単位認定基準，卒業要件の認知度について】

成績評価・単位認定の基準，卒業要件に関する認知度のアンケート結果を表2-1-11に示す。表中のパーセンテージは「知っていた」と「おおむね知っていた」の合計である。

今年度から設けた成績評価・単位認定の基準の認知度に関して、全コース平均値91%であり、各コースのばらつきもない状況であった。

卒業要件の認知度に関して、全コース平均値で令和2年度から大きな変化がなく、各コースのばらつきもない状況であった。

表 2-1-11 成績評価・単位認定に関する基準，卒業要件に関するアンケート結果 (%)

	成績評価基準		卒業要件	
	R3	—	R3	R2
E	93	—	93	91
C	90	—	86	92
L	89		85	
M	90	—	92	89
I	95	—	89↓	100
A	87	—	90	91
平均	91	—	90	92

【(設問 30) 意見・要望】

自由意見を数多くいただき回答をいただいた卒業生には感謝申し上げます。回答が多いためここで個別に取り上げることはしないが、有意義な回答もあることから、是非ともアンケート結果を参照いただき、関係部署は、今後の改善に活かしてもらいたい。

2.2 令和3年度の専攻科修了時アンケート

専攻科修了生に対するアンケートは平成14年度から実施している。過去5年間の実施状況を表2-2-1に示す。「生産情報システム工学専攻・機械系」については「M」と表記し、「同・電気系」および「同・電子情報系」は「E」、「I」と、また応用物質工学専攻、建築学専攻は「C」、「A」と表記する。令和3年度の対象者は「M, E, I, C, A」の順で「3, 5, 9, 3, 7」であるが回答者は「3, 5, 7, 2, 6」である。平成14年度(2003年1月)のアンケート開始以来、おおむね90%以上をキープしてきたが、一昨年度(平成31年度)は70%(新型コロナウイルスの影響があったと考えている)、昨年度(令和2年度)は11%(4人)と非常に低いアンケート回収率であった。そのため、本年度(令和3年度)のアンケートの分析は結果を示すことを基本とする。令和3年度の回答率は85%(回答者23名)であり、本アンケートは1月に電子メールでアンケートの依頼を行い、google formsを利用して実施している。

なお、専攻科学年定員は20名であるため、年度により異なるものの、アンケート対象者は全専攻合わせて20~30名程度、専攻や系においては数名程度と少数であることに留意する必要がある。

また、昨年度の低い回答率に対して、下記3つの改善策が検討され、本年度の回答率は85%にまで回復した。引き続き、修了生に対してはアンケートへの回答が得られる努力を続ける必要がある。表2-2-1に参考のため過去5年間のアンケート実施状況を示す。

- (1)アンケートの準備が整った1月の早い時期に、登校している学生に依頼する。
- (2)各専攻の学生数は多くないため、できる限り集まって一斉に実施する。
- (3)締め切り後に回答数を確認し、3月中旬の修了式までには回答を終えるように指導する。

表2-2-1 過去5年間の専攻科修了時アンケートの実施状況(参考)

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
平成29年(2017)度	平成30年1月	29	29	100
平成30年(2018)度	平成31年1月	26	26	100
平成31年(2019)度 (令和元年度)	令和2年1月	30	21	70
令和2年(2020)度	令和3年1月	35	4	11
令和3年(2021)度	令和4年1月	27	23	85

【進路に関する結果】

令和3年度の修了生数は27名で、その内訳は、M3名、E5名、I9名、C3名、A7名である。このうち、大学院進学予定者は9名、就職予定者が16名である(その他2名)。図2-2-2に平成29年度から令和3年度までの修了生数および大学院進学率の推移を示す。定員20名に対し、毎年29.4人(平成29年度~令和

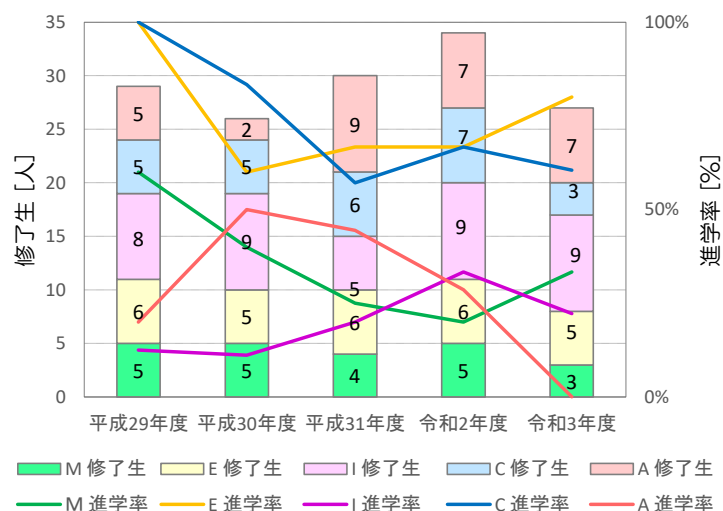


図2-2-1 専攻科修了生数と進学率

(平成29,30年度はアンケート回答(100%),平成31~令和3年度は全数調査による)

3 年度の平均) の修了生を輩出している。この間、専攻科全体としては安定的に修了生を輩出しているものの、専攻ごとではばらばらなことがわかる。進学・就職の割合は専攻や年度によって大きく異なり、E と C が比較的高い進学率（それぞれ 80% と 67%）を保っている。令和 3 年度の全体の進学率は 33% であり、過去 5 年の平均 44% に対して低くなった。

【教育全般に関する設問】

一般教育に対する満足度は、回答者の 91% が「満足」または「おおむね満足」と回答しており、例年と大きく変わらない。専門教育においても同様に「満足」または「おおむね満足」と回答した割合は 100% であり、一般教育とともに現状において大きな問題はないと思われる。また、「教育・研究環境」については 100% が「満足」または「おおむね満足」と回答している。「期待した実力がついたか」の設問に対して「満足」または「おおむね満足」と回答した割合が 91% と、概ね肯定的な回答の割合が高いことがわかる。

【学習・教育到達目標に関する設問】

図 2-2-2 学習教育到達目標に対する教育実状と到達度の結果（「身についた」「おおむね身についた」と回答した割合）を示す。いずれの学習教育到達目標も高い値を示しているが、A3（コミュニケーション能力）のみ教育実状 83%、到達度 74% と低くなっている。このようなコミュニケーション能力が低いことについては、過去 5 年間（参考データである令和 2 年を除く）は同じ傾向であり、カリキュラム改善、教育実状調査（教員・学生）など改善に向けた動きが必要と思われる。

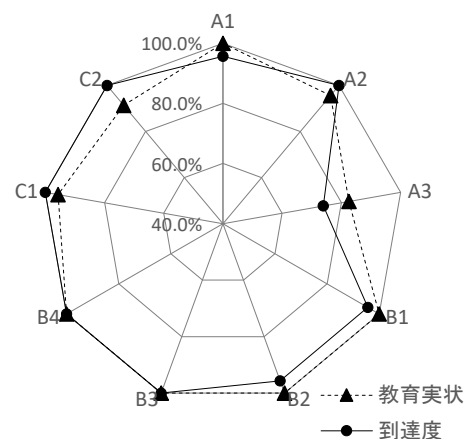


図 2-2-2 学習教育到達目標に対する教育実状と到達度

【その他】

コロナ禍ということで、以前行っていた「ポスターセッション」をオンデマンドによる動画配信での特別研究発表を行ったが、肯定的な回答の割合は 78% であった。

専攻科の少人数の授業形態に対しては、100% が肯定的な回答であった。

TOEIC に関する学習の支援体制は 70% が肯定的な回答であった。支援そのものは実施しているが希望者に対してのものであり、回答は学生の TOEIC（英語）への関心に依存すると考えられる。

シラバス利用は「利用した」、「それなりに利用した」が 87%、単位の定めるところの授業時間以外で予習・復習は、「十分できた」、「おおむねできた」が 100% で、かつ、100% が予習復習の成果がシラバス通りに評価されたと思っている。また、100% が教員の授業時間外での教科目に対する対応は良かったと思っており、授業は適切に運営されていると言える。研究発表に関しても 90% 以上が有益、あるいは、満足と回答していた。

進路支援については「よかった」、「おおむねよかった」が 91% であった。

最後に、「専攻科の修了要件の認知度」に関する設問について、100% の学生が要件を知っており、96% が成績評価・単位認定の基準、修了要件の確認方法を知っていると回答している。96% は 1 名が「知らない」と回答したことを意味している。認知度が 100% となるよう、今後も周知を行っていく必要がある。

自由意見等のコメントについては、本年度はなかった。

【今後の課題】

学習・教育到達目標に関して、A3（コミュニケーション能力）のみ低い評価となっており、前述の通り、改善に向けた動きが必要と思われる。一方で、研究発表（プレゼンテーション）等に関する回答は高い評価が得られており、コミュニケーション能力＝語学と捉え、語学でコミュニケーション能力を評価している可能性も考えられる。コミュニケーション能力の位置づけを学生に伝えるようなことも必要なのかも知れない。

2.3 令和4年度の新入生アンケート

過去3年間に実施した新入生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-3-1の通りである。アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。今回の分析は、令和3年度における新入生を対象とし、以前にも同様の質問項目がある場合はその値を参照・比較する形で行った。本アンケートは3月の入学手続き説明会の際に配布・実施している。回答率は100%であった。実施方法については問題無いと思われる。なお、アドミッション・ポリシーに関するアンケートは教務主事室で実施しているため、アドミッション・ポリシーに関する結果・分析に関してはそちらを参照して下さい。

表2-3-1 新入生保護者および新入生アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R2(2020)年度	R2年3月	新入生209	209	100
R3(2021)年度	R3年3月	新入生208	208	100
R4(2022)年度	R4年3月	新入生209	209	100

* 前年度からの留年者等を除いた学生(新規入学生)を「新入生」と定義して、本アンケートの対象としている。

【(設問1) 有明高専を最初に知った時期】

表2-3-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の差はあるが、年度によらず小学校高学年～中学校二年生で20%を越え、認知の75%を越えていることがわかる。

表2-3-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R4	R3	R2
小学校入学前	1	2	4
小学1～3年	5	6	7
小学4～6年	29	29	28
中学1年	25	27	21
中学2年	24	23	25
中学3年	15	13	15
その他	0	0	0

【(設問2) 受験検討時期】

表2-3-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位2つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の差はあるが、受験の検討は年度によらず中学校二年生、三年生で70%を越えていることがわかる。また、令和元年度から見てとれた(平成31年は3%、平成30年度は0%)小学生の高学年からの受験検討が10%で落ち着く傾向があらわれており、今後の動向を注視する必要がある。

表2-3-3 有明高専への受験検討時期(%)

時期	R4	R3	R2
小学1～3年	0	0	3
小学4～6年	12	10	12
中1	13	16	17
中2前半	33	36	28
中2後半			
中3第1学期	41	38	40
中3第2学期			
中3第3学期			
その他	0	0	0

【(設問3) 受験決定時期】

表2-3-4に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位2つの項目の数字を網掛けにしている。表2-3-4から、60%を越える入学生が、中学3年の第1～2学期に受験を決定していることが分かる。また、R4年度は受験決定時期が中3の1学期と2学期が同数であり、R3年度以前よりも早期化しているとも見る事ができるため、今後の動向を注視する必要

がある。なお、高専の受験レベルは低くないことから、中学校でのある程度の学習レベルが要求される（調査書は中学1年生の成績が含まれる）ため、受験校決定というのが有明高専とどこを考えていたのか、例えば難関高等学校なのか他高専（例えば久留米高専や熊本高専など）なのかなどは本アンケート結果からは読み取ることができないのでアンケートの回答項目および内容の工夫、取り扱いに注意が必要であると思われる。

表 2-3-4 有明高専受験を決定した時期 (%)

時期	R4	R3	R2
小学校	3	3	7
中1	10	7	8
中2 前半	7	7	4
中2 後半	15	15	11
中3 第1学期	32	25	31
中3 第2学期	32	39	34
中3 第3学期	2	4	4
その他	0	0	0

【(設問4) 関心を持ったきっかけ】

表 2-3-5 に関心を持ったきっかけに関するアンケート結果を示す。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「家族・親族」、「オープンキャンパス・見学会」、「パンフレット」が例年同様上位を占めている。家族・親族は年々増加傾向にあり（平成 31 年は 55%、平成 30 年は 49%）、引き続き今後の動向を注視する必要がある。また、「高専主催説明会」が令和 4 年度は令和 3 年度と比べ倍増しており、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-3-5 関心を持った経緯 (%)

項目	R4	R3	R2
高専主催説明会	34	15	27
体験入学	25	26	19
オープンキャンパス・見学会	39	52	48
学校行事（高専祭・体育祭等）	14	15	31
高専体育大会	1	2	3
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	19	17	17
公開講座	1	1	1
出前授業・訪問実験	3	3	3
地域イベントなどでの科学体験教室	6	4	2
パンフレット	35	38	40
ホームページ	34	38	36
中学校主催説明会	10	16	17
家族・親族	66	63	60
中学教師	13	11	12
友人・先輩	18	21	21
塾	12	11	14
新聞・雑誌・高専に関する漫画などの情報紙(誌)	2	1	2
TV・ラジオ	1	1	2
動画サイト、SNS など	12	9	6
進学情報サイトなど	7	6	10
国公私立高専合同説明会	0	3	
その他	5	7	2

【(設問5) 感じていた魅力】

表 2-3-6 に感じていた魅力に関するアンケートの結果を示す。R3 年度までは「志望動機や感じていた魅力」といった設問であったが、選択肢にも大きな変更はないことから、その設問と比較することとした。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い

項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「早期専門教育」、「就職の実績」、「将来の夢の実現」が例年同様上位を占めている。また、「海外留学・国際交流」が令和4年度は令和3年度に比べ半減しており、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-3-6 感じていた魅力 (%)

項目	R4	R3	R2
特色のある授業・カリキュラム	30	35	26
5年一貫教育	45	42	46
早期専門教育	69	59	64
就職の実績	54	52	54
大学進学実績	16	15	12
専攻科	10	8	10
JABEE 認定	1	1	1
資格取得	12	14	17
教員	1	1	1
寮	7	5	5
立地・通学環境	4	6	3
施設・設備	28	26	19
校風	18	21	17
学費	6	8	4
ロボコン・デザコン・プロコン・ブレコン	11	11	11
課外活動	4	4	6
学校行事（高専祭・体育祭等）	14	10	12
将来の夢の実現	54	49	60
学びたいことを学べる	38	38	38
海外留学・国際交流	10	21	18
家族・親戚	15	20	17
中学教師	4	1	2
先輩・友人	4	3	5
塾	1	2	2
特になし			0
その他	0	1	0

【(設問 6) 入学前に知りたかったこと】

表 2-3-7 に入学前に知りたかったことに関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「学則」、「授業」、「課外授業」、「留年・退学」が例年同様上位を占めている。これらの点は発信していく必要があると考えられる。

表 2-3-7 入学前に知りたかったこと (%)

項目	R4	R3	R2
高校との違い	14	14	12
進路（進学）	10	13	11
進路（就職）	15	16	10
学費	11	7	7
学則	46	46	43
授業	51	69	51
インターンシップ	13	19	22
国際交流	21	22	21
寮	22	24	20
課外授業	35	36	34
留年・退学	30	39	30
満足度	11	8	16
その他	1	1	0

【(設問7)『高専』という選択』を読んだことがあるか。】

表2-3-8に高専機構が作成した冊子『高専』という選択』を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。過去3年、読んだことのある新入生の割合が低調である。何らかのアクションが必要な時期であると考えられる。

表2-3-8 『高専』という選択』を読んだことがあるか (%)

	R4	R3	R2
読んだ	13	12.5	30
読んでいない	87	87.5	70

【(設問8)「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか】

表2-3-9に高専機構が作成した冊子「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。令和3年度入学生は配布が行われていなかったが、それと同程度の低調な結果である。何らかのアクションが必要な時期であると考えられる。

表2-3-9 「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか (%)

	R4	R3	R2
読んだ	8	7	21
読んでいない	92	93	79
(入学生のうち女子学生の割合)	30	30	28

2.4 令和4年度の4年次編入生アンケート

過去3年間に実施した編入学生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-4-1の通りである。昨年度までとは設問項目を大幅に変更したため、結果・分析は、以前にも同様の質問項目がある場合はその値を参照・比較する形で、質問項目がない場合は初期値を示す形で行った。本アンケートは3月の編入学生説明会の際に配布・実施している。回答率は100%であった。実施方法については問題無いと思われる。

表2-4-1 4年次編入生アンケートの実施時期および回答者

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R2(2020)年度	令和2年12月	9	8	89
R3(2021)年度	令和3年7月	13	13	100
R4(2022)年度	令和4年3月	12	12	100

【所属コース】

エネルギー5名、応用化学0名、環境生命0名、メカニクス2名、情報システム4名、建築1名であった。

【(設問1) 有明高専を最初に知った時期】

表2-4-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。今年度、新たに設けた設問で、1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。最初に知った時期で最も多い時期は中学校の時期という結果であった。

表2-4-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R4
小学校入学前	0
小学生の時期	17
中学校の時期	<u>50</u>
高等学校1年生の頃	17
高等学校2年生の頃	17
高等学校3年生の頃	0
その他	0

【(設問2) 受験検討時期】

表2-4-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。今年度、新たに設けた設問で、1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。受験を検討し始めた時期で最も多い時期は高等学校2年生の頃であった。

表2-4-3 有明高専への受験検討時期(%)

時期	R4
高等学校1年生の頃	17
高等学校2年生の頃	<u>67</u>
高等学校3年生の頃	17
その他	0

【(設問3) 受験決定時期】

表2-4-4に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。編入学年度によりばらつきが多いが、総じて高等学校3年生の1学期前半が多い傾向が伺えるが、今年度最もパーセンテージの高い時期は「高等学校2年生の1学期」であったことから、受験決定の早期化の可能性も考え、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-4-4 有明高専受験を決定した時期 (%)

時期	R4	R3	R2
高等学校 1 年生の頃	0	0	13
高等学校 2 年生の 1 学期	33	0	13
高等学校 2 年生の 2 学期	17	8	25
高等学校 2 年生の 3 学期	25	23	13
高等学校 3 年生の 1 学期前半	25	69	25
高等学校 3 年生の 1 学期後半 (締切時期)	0	0	13
その他	0	0	0

【(設問 4) 関心を持ったきっかけ】

表 2-4-5 に関心を持ったきっかけに関するアンケート結果を示す。令和 3 年度の「情報取得方法」から選択肢を大幅に増やした形であり、令和 3 年度までの「情報取得方法」と比較を行うこととした。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「ホームページ」、「高等学校の先生からのすすめ」が多い傾向があるが、「パンフレット」、「先輩・友人からのすすめ」が急伸しており、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-4-5 関心を持った経緯 (%)

項目	R4	R3	R2
入学説明会 (本校主催)	8		
体験入学	17		
オープンキャンパス・見学会	8	0	0
学校行事 (ありタムフェスタなど)	17		
高専体育大会	0		
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	17		
公開講座	0		
出前授業	0		
地域イベントなどでの科学体験教室	0		
学校のパンフレット	42	4	23
学校のホームページ	42	38	27
高等学校における説明会	0	4	5
家族・親族からのすすめ	33		
高等学校の先生からのすすめ	42	50	32
先輩、友人からのすすめ	42	4	5
塾の先生からのすすめ	0	0	0
新聞・雑誌・高専に関する漫画などの情報紙 (誌)	8		
テレビ・ラジオ	8		
動画公開サイト (YouTube など)、SNS	17		
インターネットの進学情報サイトやニュース記事	8		
国公立高専合同説明会 (高専機構主催)	0		
その他	8	0	0

【(設問 5) 編入学の動機】(複数回答可)

表 2-4-6 に編入学の動機に関するアンケート結果を示す。令和 3 年度の「入学の決め手」から選択肢を大幅に増やした形であり、令和 3 年度までの「入学の決め手」と比較を行う。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。例年高いパーセンテージである「就職の実績がよい」が高かったが、その他では今年度設定した項目である「ロボコン」「デザコン」「プロコン」「プレコン」に興味がある、海外留学、国際交流の機会があるが高いパーセンテージを示し、今後の動向を注視する必要がある。また、例年パーセンテージが高い傾向にある「学費があまりかからない」はゼロであった。こちらも、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-4-6 編入学の動機 (%)

項目	R4	R3	R2
特色のある授業・カリキュラム	25		
理工系の教育プログラムに関心がある	17		
専門教育が充実している	17		
就職の実績がよい	67	24	11
大学への進学実績がよい	33	9	21
専攻科へ進学し、学士の学位を取得することができる	8	9	5
とりたい資格が取れる	0		
この人に学びたいと思う教員がいる	0		
寮がある	0	12	5
立地、通学環境がよい	8	3	5
施設や設備が充実している	0	0	0
校風が自分に合っている	8	6	11
学費があまりかからない	0	21	21
「ロボコン」「デザコン」「プロコン」「プレコン」に興味がある	58		
入りたい部活動があるなど、課外活動に興味がある	0		
学校行事に興味がある	8		
将来の夢を実現できると思った	8		
自分の学びたいことが学べる	42		
海外留学、国際交流の機会がある	58		
家族、親戚からのすすめがあった	0		
高等学校の先生からのすすめがあった	25	12	16
塾の先生からのすすめがあった	8		
先輩、友人からのすすめがあった	17		
特になし	0		
その他	0	3	0

【(設問 6) 入学前に知りたかったこと】

表 2-4-7 に入学前に知りたかったことに関するアンケートの結果を示す。今年度新たに設けた設問で、5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。「授業について」「進路 (就職について)」「学則について」「留年退学について」が高い項目であった。これらの点は発信していく必要があると考えられる。

表 2-4-7 入学前に知りたかったこと (%)

項目	R4
大学 (短期大学) との違いについて	17
授業について (時間割, 授業科目, 実験・実習, 課題)	58
インターンシップについて	17
進路 (進学率, 進学先) について	8
進路 (就職率, 就職先) について	25
学費について (奨学金や学費の減額・免除の制度)	8
国際交流活動について (留学制度, 外国人学生の受入れ)	8
学則について	25
寮について (寮の規則, 寮の費用, 雰囲気など)	8
課外活動について (部活動の種類, 土日の活動)	8
留年, 退学について	25
知りたかったことは知ることができていた	17
その他	8

【(設問 7) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-4-8 に「アドミッション・ポリシーを知っているか」に関するアンケート結果を示す。今年度新たに設けた設問で、1 つのみ回答可としている。92%が「知っている」と回答した。

表 2-4-8 アドミッション・ポリシーを知っているか (%)

回答項目	R4
知っている	92
知らない	8

【(設問 8) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-4-9 にアドミッション・ポリシーを知っている編入生に対する自己評価に関するアンケート結果を示す。今年度新たに設けた設問で、複数回答可（すべてを満たす場合は全てに印を付す）としている。全項目で 82～73%の回答であった。

表 2-4-9 アドミッション・ポリシーを満足しているかの自己評価 (%)

回答項目	R4
ものづくりに興味がある人	82
チャレンジ精神がある人	82
他の人と協力して作業ができる人	82
物事を粘り強くやり続けることができる人	73
社会に貢献したいと考えている人	82

2.5 令和4年度、専攻科入学生アンケート

専攻科入学生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表 2-5-1 の通りである。今年度新たに設けたアンケートで、アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。本アンケートは 3 月の入学手続き説明会の案内メール (2 月) で依頼し、入学手続き締切日 (3/9) までで google form を用いて実施している。回答率は 83.9%であった。実施方法については問題無いと思われる。

表 2-5-1 専攻科入学生アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数 (名)	回答者数 (名)	回答率 (%)
R4 (2022) 年度	R4 年 3 月	31	26	83.9

【(設問 1) 有明高専専攻科を最初に知った時期】

表 2-5-2 に有明高専専攻科を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1 つのみ回答可としている。中学生時期から既に知っている学生が約 40%いることがわかる。

表 2-5-2 有明高専専攻科を最初に知った時期 (%)

時期	R4
小学校入学前	0
小学生の時期	4
中学生の時期	38
高専 1~3 年	50
高専 4~5 年	8

【(設問 2) 受験検討時期】

表 2-5-3 に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1 つのみ回答可としている。約 60%の学生が高専 4 年生から 5 年生の頃に受験を検討したことがわかる。

表 2-5-3 有明高専専攻科の受験検討時期 (%)

時期	R4
高専 1~2 年前期	15
高専 2 年後期~3 年	27
高専 4~5 年	58
その他	0

【(設問 3) 受験決定時期】

表 2-5-4 に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1 つのみ回答可としている。表 2-5-4 から、65%の学生が、高専 4 年後期までに受験を決定していることが分かる。

表 2-5-4 有明高専専攻科受験を決定した時期 (%)

時期	R4
高専 1~2 年前期	8
高専 2 年後期~3 年	12
高専 4 年前期	19
高専 4 年後期	27
高専 5 年前期	35
高専 5 年後期	0

【(設問 4) 入学の動機 (本校の魅力)】

表 2-5-5 に入学の動機に関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可としており、パーセンテージが 50%以上の項目の数字を網掛けにしている。回答者の半数以上が選択した項目は、多い順に「学費」と「学位」であることが分かる。

表 2-5-5 入学の動機（本校の魅力）（%）

項目	R4
特色のある授業・カリキュラム	27
知的欲求	23
専門教育	38
就職の実績	31
大学院進学実績	35
学士の学位取得	54
資格取得	4
教員	8
立地・通学環境	12
施設・設備	8
学費	65
将来の夢の実現	8
学びたいことを学べる	23
海外留学・国際交流	4
家族・親戚	38
教員	4
先輩・友人	12
特になし	0

【設問 5）アドミッション・ポリシーについて】

表 2-5-6 に「アドミッション・ポリシーを知っているか」に関するアンケート結果を示す。4 分の 1 程度が知らない状況であり、改善の余地があり、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-5-6 アドミッション・ポリシーを知っているか（%）

項目	R4
知っている	77
知らない	23

【設問 6）アドミッション・ポリシーについて】

表 2-5-7 にアドミッション・ポリシーに対する自己評価に関するアンケート結果を示す。5 つまでを回答可としており、パーセンテージが 50%以上の項目の数字を網掛けにしている。アンケート結果から、国際性の観点で低い評価となっていることが分かる。「国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人」に関しては改善が必要であり、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-5-7 アドミッション・ポリシーを満足しているかの自己評価（%）

	R4
幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人	70
専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人	70
自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人	55
多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人	65
国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人	15

2.6 教職員アンケート

平成30年度に教職員を対象とした「教育理念等の認識度調査」が実施されているが、その後、教職員に対するアンケートは行われていなかった。今回は教育理念の認識度調査を含め、教職員アンケートを実施した。本アンケートは4月に案内メール（締切1週間前にリマインドメール）を出し、4月29日まででgoogle formを用いて実施している。アンケートを実施した令和3年4月時点における本校の全教職員は118名（全教員数72名、全職員数46名）で、回答者数は75名で、回答率63.6%であった。他のアンケートに比べると回答率が低い。他のアンケートと同様の方式であることから、実施方法としては問題ないと考えられるが、周知方法、アンケート実施時期には改善の余地がある。

【(設問1～10) 教育理念、養成すべき人物像、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的の周知に関する設問】

設問1～10のアンケート結果を表2-6-1に示す。「教育理念」、「養成すべき人物像」、「準学士課程の学習・教育到達目標」は「知っている」、「ある程度知っている」が80%を超えており良好な状態と考えられる。しかし、「学習・教育到達目標（準学士、専攻科課程）」、「3つのポリシー（準学士、専攻科課程）」、「教育上の目的（創造工学科、各系、各コース、専攻科課程）」では「知っている」、「ある程度知っている」が80%未満であり、教職員に対するこれらの項目の周知において改善が必要である。

平成30年度のアンケート結果では「教育理念」が94%、「養成すべき人物像」が93%、「準学士課程の学習・教育到達目標」が86%、「準学士課程の3つのポリシー」が83%、「創造工学科の教育上の目的」が80%、「各系の教育上の目的」が72%、「各コースの教育上の目的」が69%、「専攻科課程の学習・教育到達目標」が74%、「専攻科課程の3つのポリシー」が70%、「専攻科課程の教育上の目的」が63%であった。「教育理念」、「養成すべき人物像」は10%程度ポイントを下げているものの80%を超えているが、専攻科に関する項目は10%程度ポイントを上げて70%台となっている。良い意味で平均化された状況とみることができる。

表2-6-1 教育理念、養成すべき人物像、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的の周知に関する設問 (%)

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない
1. 教育理念	37	49	12	1
2. 養成すべき人物像	36	48	15	1
3. 準学士過程の学習・教育到達目標	36	47	13	4
4. 準学士課程の3つのポリシー	36	43	17	4
5. 創造工学科の教育上の目的	32	47	17	4
6. 各系の教育上の目的	24	45	23	8
7. 各コースの教育上の目的	30	40	23	8
8. 専攻科課程の学習・教育到達目標	33	41	17	8
9. 専攻科課程の3つのポリシー	35	41	19	5
10. 専攻科課程の教育上の目的	33	41	19	1

【(設問11) あなたは本校の教育理念、養成すべき人材、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的に照らし合わせ、教育の実状をどう思われますか】

設問11の結果を表2-6-2に示す。「よく達成されている」は23%であり、教職員による教育実情の達成度評価は非常に低い状況であることがわかった。達成度が低い項目は、設問12で実施しており、これらの状況を参考に教育実情の改善が必要であると考えられる。

表2-6-2 本校の教育理念、養成すべき人材、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的に照らし合わせ、教育の実状をどう思われますか (%)

項目	R4
よく達成されている	23
達成されている	63
あまり達成されていない	9
(着任したばかりで) わからない	5

【(設問12) 設問11で「よく達成されている」と回答されなかった方は、何を改善すればよいと考えますか】
設問12の結果を表2-6-3に示す。複数選択可としているため、結果は回答母数（全回答数75から「よく

達成されている」の 17 を減じた 58 を母数とした) に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。改善が必要な項目としてポイントが高い順に、教員の構成や配置 41%、教員の教育研究活動の評価 31%、学習支援 29%であった。単年度の調査結果であることから、今後の動向を注視する必要がある。改善の必要性を多くの教職員が持っている状況が分かったことから、自由記述などを加え、より具体的な改善項目の洗い出しが必要と考えられる。

表 2-6-3 設問 11 で「よく達成されている」と回答されなかった方の改善項目 (%)

項目	R4
1.学科の構成や専攻の構成といった教育組織 (基準 2-1)	22
2.教員の構成や配置 (基準 2-2)	41
3.教員の教育研究活動の評価 (基準 2-3)	31
4.教員および教育支援者の能力向上を図る取組 (基準 2-4)	22
5.学習環境 (施設設備) (基準 3-1)	24
6.学習支援 (生活・経済面の支援, 課外活動) (基準 3-2)	29
7.財務に関すること (基準 4-1)	5
8.管理運営体制 (運営や危機管理など) (基準 4-2)	12
9.情報公開 (基準 4-3)	3
10.カリキュラム・ポリシー (基準 5 と基準 8)	3
11.アドミッション・ポリシー (基準 6 と基準 8)	2
12.ディプロマポリシー (基準 7 と基準 8)	5
13.その他	3

【設問 13】 ICT 環境のあなたの満足度を教えてください】

設問 13 の結果を表 2-6-4 に示す。「非常に満足である」、「満足である」で 71%であり、満足度が高くないことがわかった。単年度の調査結果であることから、今後の動向を注視する必要があるが、満足でない教職員が多数であることがわかったことから、次の調査では自由記述を加え、より具体的な項目の洗い出しが必要と考えられる。

表 2-6-4 ICT 環境のあなたの満足度を教えてください (%)

項目	R4
非常に満足である	19
満足である	52
あまり満足ではない	28
(着任したばかりで) 判断できない	1

【設問 14】 あなたは図書館を有効に活用していると思いますか】

設問 14 の結果を表 2-6-5 に示す。「あまり活用していない」、「全く活用していない」が 73%であり、活用度が高くないことがわかった。単年度の調査結果であることから、今後の動向を注視する必要があるが、活用度が低い教職員が多数であることがわかったことから、次の調査では自由記述を加え、論文検索システムの拡充などのより具体的な項目の洗い出しが必要と考えられる。

表 2-6-5 あなたは図書館を有効に活用していると思いますか (%)

項目	R4
有効に活用している	25
あまり活用していない	53
全く活用していない	20
(着任したばかりで) 判断できない	1

【設問 15】 本校の収支に関する「方針・計画」を知っていますか】

設問 15 の結果を表 2-6-6 に示す。「あまり知らない」、「全く知らない」、「わからない」という回答が 70%を超えており、収支の計画等の策定とその明示に改善が必要である。改善計画書では、令和 4 年度決算報告、令和 5 年度予算案が令和 5 年度の運営会議で行うとの回答があることから、今後の動向を注視していく必要がある。

表 2-6-6 本校の収支に関する「方針・計画」を知っていますか (%)

項目	R4
よく知っている	7
ある程度知っている	21
あまり知らない	43
まったく知らない	25
(着任したばかりで) わからない	4

【(設問 16) 設問 15 で「まったく知らない」と回答されなかった方は、「方針・計画」をどう思われますか】

設問 16 の結果を表 2-6-7 に示す。本校の収支に関する「方針・計画」を知っている方々への質問で、結果は回答母数 (回答母数 75 から「まったく知らない」、「わからない」の合計数 21 を減じた 53 を母数とした) に対する回答数のパーセンテージで記した。「方針、計画は両方とも明示されており、内容も問題ない状況である」の回答は 55% であり、半数近くの方が、方針・計画、収支の現状について問題意識を持っていることが分かる。改善計画書では、令和 4 年度決算報告、令和 5 年度の予算案が令和 5 年度の運営会議で行うとの回答があることから、今後の動向を注視していく必要がある。また、該当部署が、運営会議からの発信・伝達に頼るだけでなく、ダイレクトに本校の収支に関する「方針・計画」を積極的に発信することが望まれる。

表 2-6-7 設問 15 で「まったく知らない」と回答されなかった方は「方針・計画」をどう思われますか (%)

項目	R4
計画は明示もされて十分な状況であるが、収支は不十分な状況である	13
収支は明示もされて十分な状況であるが、計画は不十分な状況である	23
方針、計画は両方とも明示されており、内容も問題ない状況である	55
方針・計画は両方とも明示もされておらず、問題のある状況である	5

【(設問 17) 予算 (資源) 配分が本校の「方針・計画」と合致した内容になっていると思いますか】

設問 17 の結果を表 2-6-8 に示す。「わからない」という回答が 64% となっており、多くの教職員が予算配分の全体が見えていない状況にあることから、今後、改善が必要である。また、該当部署が、運営会議からの発信・伝達に頼るだけでなく、ダイレクトに本校の収支に関する「方針・計画」を積極的に発信することが望まれる。

表 2-6-8 予算 (資源) 配分が本校の「方針・計画」と合致した内容になっていると思いますか (%)

項目	R4
合致している	32
合致していない	4
わからない	64

【(設問 18) 設問 17 で「合致している」と回答された方は予算 (資源) 配分内容に関してどう思われますか】

設問 18 の結果を表 2-6-9 に示す。予算配分が本校の「方針・計画」に合致している方々 (回答母数 24) への質問で、結果は回答母数に対する各項目の回答数のパーセンテージで記した。「良い状況である」が 71% であり、改善の余地がある状況で、学校としての計画・方針、予算配分に関する丁寧な説明が必要であることがわかる。

表 2-6-9 設問 17 で「合致している」と回答された方は予算 (資源) 配分内容に関してどう思われますか

項目	R4
良い状況である	71
あまり良い状況でない	29
回答なし	0

【(設問 19) 設問 18 で「合致していない」と回答した方は例があれば教えてください(自由記述)】

「合致していない」とする方から自由記述で意見を頂戴している。重要な意見でもあることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるものは対応するようにお願いしたい。

【(設問 20) 教員と事務職員等との役割分担は適切と思われますか】

設問 20 の結果を表 2-6-10 に示す。「適切である」が 64% と低い値であることから、今後の課題である。特に設問 21, 22 では具体的な案件が提示されていることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応

できるもの是对应するようにお願いしたい。

表 2-6-10 教員と事務職員等との役割分担は適切と思われませんか (%)

項目	R4
適切である	64
適切でない	31
(着任したばかりで) わからない	5

【(設問 21) 設問 20 で「適切である」と回答された方はその役割配分のもと、必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われていると思いますか】

設問 21 の結果を表 2-6-11 に示す。設問 20 において「教員と事務職員の役割分担が適切である」と回答された方々 (回答母数 48) への質問で、結果は回答母数に対する各項目の回答数のパーセンテージで記した。「効果的な活動が行われている」が 63%と低い値であったことから、教員、事務職員の連携に関して改善が必要であることが見て取れる。教員と事務職員の連携は、設置基準改正でも重要視されていることから、問題点の把握と改善が速やかに行われることが期待される。

表 2-6-11 設問 20 で「適切である」と回答された方はその役割配分のもと、必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われていると思いますか (%)

項目	R4
必要な連携体制が確保され、効果的な活動が行われている	63
必要な連携体制が確保されているが、効果的な活動が行われていない	25
必要な連携体制が確保されておらず、効果的な活動が行われていない	4
空白セル (回答：わからない 4名)	8

【(設問 22) 設問 20 で「適切でない」と回答された方は改善すべきと思われる点を教えて下さい(記述回答)】

設問 20 で教員と事務職員等との役割分担は「適切でない」と回答した教職員の自由記述回答が得られた。貴重な意見であることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるもの是对应するようにお願いしたい。

【(設問 23) 教職員に関するアンケートの実施時期はどう思われますか】

設問 23 の結果を表 2-6-12 に示す。「年度初め」が 45%、「年度末」が 32%と、年度を振り返ることができる時期がよいことが分かった。今後の教職員アンケート収集の時期に活かしていきたい。

表 2-6-12 教職員に関するアンケートの実施時期はどう思われますか (%)

項目	R4
後期開始前の時期が良い	23
今の時期が良い	45
年度末の時期が良い	32

【(設問 24) 教職員に関するアンケートの実施はどう思われますか】

設問 24 の結果を表 2-6-13 に示す。教職員アンケートの実施に関しては「非常に良いと思う」、「良いと思う」で 91%と高い値となった。運営会議には、今後の学校運営・改善に繋がるよう、活用をお願いしたい。

表 2-6-13 教職員に関するアンケートの実施はどう思われますか (%)

項目	R4
非常に良いと思う	31
良いと思う	60
あまり良くないと思う	9

【(設問 25) 教育システムに関して何かご意見がありましたら、教えてください。(自由記述)】

本校の教育システムに関する教職員の意見が多数得られた。ここで内容を記述することは避けるが、貴重な意見であることから、運営会議で内容を確認し、建設的なもの、対応できるもの是对应するようにお願いしたい。

2.7 令和4年度の5年生卒業時アンケート

平成28年4月に改組が行われ5学科制から、創造工学科1学科6コース制となった。令和4年度の卒業生が創造工学科の3期生となり、本アンケートも1期生が卒業した令和2年度よりアンケートの内容を変更している。本アンケートは2月に電子メールで学生にアンケートの依頼を行い、担任の協力を得ながら Google Forms を利用して実施している。創造工学科への改組後のアンケートの実施状況を表2-7-1に示す。表2-7-1の通り、令和4年度の回答率は91%であった。無記名での回答のため、回答率100%の達成は難しい状況である。

表2-7-1 過去3年間の5年生卒業時アンケートの実施状況（参考）

	実施時期	対象者数（名）	回答者数（名）	回答率（%）
令和2（2020）年度	令和3年3月	183	176	96
令和3（2021）年度	令和4年1月	203	195	93
令和4（2022）年度	令和5年2月	203	185	91

※ 以下のコメントではコース名をエネルギー（E）、応用化学（C）、環境生命（L）、メカニクス（M）、情報システム（I）、建築（A）と記号を用いて略記する。

教育システムに関する分析として、令和4年度と令和3年度を比較等することとした。以下の表において、各年度で全コースの平均値から10ポイント以上低い場合は数値を網掛けしその右横に⊖、10ポイント以上高い場合は数値を網掛けしその右横に⊕を付し、令和4年度のパーセンテージが令和3年度から10ポイント以上上昇した場合は数値右横に↑、10ポイント以上下降した場合は数値右横に↓を付した。なお、CおよびLコースはその他のコースに比べ学生定員数が半分であり、一人のアンケートの有無でパーセンテージが他のコースに比べ変動が大きいことに留意する必要がある。

A：回答者自身に関する設問

【設問1）所属コース】

令和3年度において、5年生は4月時点で213名が在籍しており、203名が卒業した。一方、令和4年度において、教務係による統計では、平成30年4月入学時の学生数は215名、令和2年4月に3年次に留学生2名（C1名、I1名）と他高専からの転入生1名（I1名）、令和3年4月に4年次編入学生14名（E4名、C2名、M2名、I4名、A2名）が加わっている。最終的に、令和4年度の5年次学生の基本的全学生数（累計の入学人数）は232名であり、その内の88%（203名）の学生が卒業していることになる。令和3年度の89%とほぼ同じ水準であった。

【設問2）卒業後の進路】

アンケート回答者の65%（121名）が就職で、令和3年度の68%より3ポイント低かった。進学は31%（57名）であり、令和3年度の31%と同水準であった。そのうち大学3年次編入に16%（30名）、専攻科に15%（27名）の学生が進学しており、令和3年度の14%、16%と同程度の状況である。各コース間の差もほとんど無かった。

B：教育全般の総括の評価に関する設問

【設問3～8）一般教育、専門教育、教育設備・学習環境、ICT環境・活用、図書館資料とその活用、期待していた実力の修得、教育研究の成果に関する満足度について】

表2-7-2に有明高専における教育全般の満足度に関するアンケートの結果を示す。回答は「満足している」、「おおむね満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4つの選択式で、表中のパーセンテージは「満足している」と「おおむね満足している」の合計である。

「一般教育」と「専門教育」の項目では令和3年度では全コースで90%以上で各コースでのばらつきも少なかったが、令和4年度ではLコースのみ専門教育の満足度が極端に低かった。ただし他の項目を見ても全体的に満足度が低いわけでもなく、表2-6-2全体を通して特定の要因は見えてこない。今後の動向を注視する必要がある。「教育設備・学習環境」については全コースの平均値で90%であり、満足度が高かった。

「ICT環境・活用」について4つのコースで前年度よりも満足度が10ポイント以上下がっており、これは新型コロナウイルス感染状況に伴う遠隔授業やオンラインでの課題の出し方等の影響があったと考えられる。「図書館資料・活用」の項目では令和3年度ではMコースが全コースの平均値から10ポイント以上低かったが、令和4年度では改善された。また、「期待した実力修得」の項目ではIコースの満足度が令和3年度に比べて16ポ

イント下がり、全コースの平均値よりも 10 ポイント低かった。今後の状況を注視し、この状況が続くようであれば学生の期待している項目を改めて確認し、本校の提供する教育内容と差がないか改めて検討する必要がある。「教育研究成果」については、令和 4 年度はどのコースもあまり差が無かった。

表 2-7-2 教育における満足度調査のアンケート結果 (%)

	一般教育			専門教育			教育設備・学習環境			ICT 環境・活用		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
E	94	93	94	97	98↑	88	94	98↑	88	88↓	98↑	76
C	100	95	97	100↑	90	95	100⊕	95	97	82↓	95↑	78
L	100	100		65⊖↓	89		85↓	96		89	89↑	
M	97	95	97	97	100↑	86	94	92	89	89	87↑	64
I	97	100↑	79⊖	91	97↑	83	88↓	100↑	76⊖	79↓	95↑	48⊖
A	91	90	94	91	90	88	83	90	81	81↓	94↑	69
平均	96	96	93	91	95	89	90	95	87	84	93↑	68

	図書館資料・活用		期待した実力修得		教育研究成果	
	R4	R3	R4	R3	R4	R3
E	97	88	88	90	88	93
C	94	100	88↓	100	94	95
L	100	96	90	89	85	78⊖
M	97↑	82⊖	97	90	89	92
I	91	100	79⊖↓	95	88	95
A	89	97	89	90	87	87
平均	94	93	89	92	88	90

C：学習・教育到達目標について

【(設問 10～18)】

表 2-7-3、2-7-4、2-7-5 に有明高専における学習・教育到達目標が身に付いたか、達成度に関するアンケートの結果を示す。選択肢は「身に付いたと思う」、「おおむね身に付いたと思う」、「少し身に付いたと思う」、「余り身に付かなかったと思う」の 4 つであり、表中のパーセンテージは「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」の合計である。

全体的に見て学習・教育到達目標は「おおむね身に付いた」と考えられるが、いくつかの項目で達成度の低い箇所があり、今後の状況を注視する必要がある。A「豊かな教養と国際性」については、A-1 と A-2 で例年

表 2-7-3 学習・教育到達目標 (A：豊かな教養と国際性) が身に付いたかのアンケート結果 (%)

	A-1			A-2			A-3		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
E	97	90	94	94	93	94	72	73↓	91
C	88↓	100	89	82⊖↓	95	97	76⊕	76↓	92
L	80⊖	78⊖		95	89		55↓	70↓	
M	89	95	86	97	90	91	60↓	74↓	89
I	97	92	83	100	100	93	53⊖↓	92⊕↑	79⊖
A	91	94	91	85	94	94	64↓	77↓	92
平均	91	92	89	92	93	94	63↓	77↓	89

表 2-7-4 学習・教育到達目標 (B：専門知識と学際性) が身に付いたかのアンケート結果 (%)

	B-1			B-2			B-3			B-4		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
E	88	93	85	91	85	88	91	88	88	88	88	88
C	94	100	97	82↓	95	97	88	95	95	82↓	100	86
L	80	85		80	89		80	82		70⊖↓	85	
M	94	95	91	91	95	89	91	95	89	94	95	86
I	88	95	86	85	89	86	82↓	92	90	82↓	92	94
A	87	90	97	89	90	97	87	90	97	85	94	88
平均	89	93	91	88	90	91	87	90	91	85	92	88

表 2-7-5 学習・教育到達目標（C：創造性とデザイン能力）が身に付いたかのアンケート結果（%）

	C-1			C-2		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2
E	94	85	91	88	85	85
C	82↓	95	92	82↓	100	86
L	80	85		65 ^⓪ ↓	89	
M	91	98	91	89	95	86
I	76 ^⓪ ↓	95	83	85	81	86
A	87	94	94	87	94	97
平均	86	92	90	84	90	88

全コース平均値で90%を越えているが、令和3年度に続きA-3「コミュニケーション能力」の項目のみ低かった。また、Iコースで39ポイント減と極端に値が下がっている点も注意が必要である。B「専門知識と学際性」ではB-4「工学の学際的知識」でLコースのみ全コース平均値よりも低い値になっていた。C「創造性とデザイン能力」については、C-1「課題探究力」でIコース、C-2「課題解決力」でLコースが他コースに比べて達成度が低かった。表2-6-1で示したとおりLコースの専門教育満足度が小さかったことと関係がある可能性があり、B-4とC-2の項目は今後特に注視したいところである。

D：その他

【設問 19, 20）シラバスに関する設問】

シラバスの利用に関するアンケート結果を表2-7-6に示す。「シラバス利用」のアンケートの選択肢は「利用した」、「それなりに利用した」、「あまり利用しなかった」、「利用しなかった」の4つであり、表中のパーセンテージは「利用した」と「それなりに利用した」の合計である。また、「シラバスの利用状況をもとにした授業改善」のアンケートの選択肢は「見られた」、「それなりに見られた」、「あまり見られなかった」、「見られなかった」の4つであり、表中のパーセンテージは「見られた」と「それなりに見られた」の合計である。

表 2-7-6 シラバスに関するアンケート結果（%）

	シラバス利用			シラバスと授業改善		
	R4	R3	R2	R4	R3	—
E	78	75	82	81	90	—
C	71	76	84	88↑	76 ^⓪	—
L	95 ^⓪ ↑	82		65 ^⓪	70 ^⓪	—
M	89 ^⓪	85	80	89	87	—
I	76↓	87	83	85↓	95	—
A	72	81	84	85	93	—
平均	79	81	82	83	87	—

シラバスの利用に関して、各項目、各コースにおいて多少のばらつきはあるものの、本校ではシラバスの授業計画に基づき、授業が実施され、また改善も行われていることが確認できる。ただし、Lコースについてはシラバス利用の値が高く、授業改善の値が低いという結果であった。令和3年度も同じような結果が出ており、この状況が続くようであれば学校として授業改善アンケートの分析や授業改善に関する研修などを行う必要がある。

【設問 21, 22）TOEIC 関連の設問】

TOEIC 関連のアンケート結果を表2-7-7に示す。アンケートの選択肢は「役に立った」、「おおむね役に立った」、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」の4つであり、表中のパーセンテージは、「役に立った」と「おおむね役に立った」の合計である。「TOEIC 関連の授業の役立ち」の設問に関して、全コース平均値で60%であり令和3年度に比べて10ポイント以上下がっている。特にEコースとIコースは「役に立った」もしくは「おおむね役に立った」と実感している学生が半数程度であり、大変厳しい結果になっている。今後の動向を注視すると同時に、学校で実施しているTOEIC 関連の試験結果を活用・総括して、今後の対応を英語関連の教員や教務主事室等で改めて検討することが望まれる。「TOEIC 一斉試験が役に立ったか」の設問に関して、全コース平均値で77%であった。Cコースでは94%とコース平均よりも17ポイント高い値

であったが、EコースとIコースはコース平均よりも低い値であった。同コースは「TOEIC 関連の授業が役に立ったか」でも低い値であったことから、TOEIC 関連の授業や試験に関する上手な活用方法を改めて検討し、今後の動向を注視していく必要がある。

表 2-7-7 TOEIC に関するアンケート結果 (%)

	授業の役立ち		一斉試験について	
	R4	R3	R4	R3
E	47 [⊕] ↓	73	72	80
C	71 [⊕]	71	94 [⊕]	90
L	60	59 [⊖]	75	73
M	63	72	80	87
I	53↓	92 [⊕]	71↓	89
A	68↑	58 [⊖]	77	68 [⊖]
平均	60↓	72	77	81

【(設問 23-27) レポートのフィードバック, 教員の授業時間外の学習指導, 授業改善アンケートとその授業改善への反映, 学修単位の時間外学修の評価, 進路支援について】

「レポートのフィードバック」, 「教員の授業時間外の学習指導」, 「授業改善アンケートと授業改善」, 「学修単位の時間外学修の評価」, 「進路支援」に関するアンケート結果を表 2-6-8 に示す。各表のパーセンテージは 4 択のうち上位 2 つ, 例えば「レポートのフィードバック」では「適正」と「おおむね適正」の合計である。

「レポートのフィードバック」に関して, 全コース平均値に比べて C コースは 14 ポイント, L コースは 25 ポイント低いことから, このような状況が今後も続くようであればコース全体でレポートのフィードバック方法について改善する必要がある。「授業時間外の学習指導」に関して, 全コース平均値で令和 3 年度から大きな変化がなかったが, L コースのみ平均値よりも 10 ポイント少ない状況であった。「授業改善アンケートとその授業改善への反映」に関して, コース間のばらつきが大変大きく, 全コース平均値に比べて C コースと L コースは低く, M コースと I コースは高い状況であった。各教科担当者は授業改善に力を入れつつ今後の状況を注視する必要がある。

「学修単位の授業時間外学修の評価」と「進路支援」に関しては, 全コース平均値は 91%であり, 各コースのばらつきもほとんど無い状況であった。

表 2-7-8 レポートのフィードバック, 授業時間外学習指導, 授業改善アンケートと授業改善, 進路支援に関するアンケート結果 (%)

	レポートのフィードバック			授業時間外学習指導			授業改善アンケート		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
E	84↓	95	94	97	95	88	81	88	82
C	71 [⊕] ↓	95	86	100	100	100	65 [⊖] ↓	76 [⊖]	81
L	60 [⊖] ↓	74 [⊖]		85 [⊖]	89		60 [⊖] ↓	78	
M	89	92↑	73 [⊖]	97	100	96	94 [⊕]	92	73
I	91	89	83	97	100	100	91 [⊕]	95	72
A	94	94	91	91	97	97	74↓	84	75
平均	85	90	85	95	97	96	80	87↑	77

	学修単位の評価		進路支援		
	R4	R3	R4	R3	R2
E	84↓	95	88	95	91
C	88	90	88↓	100	95
L	85	85	85↓	100	
M	100↑	90	97	92	93
I	94	100	91	97	97
A	91	94	91	87	97
平均	91	93	91	95	94

【(設問 28-29) 成績評価・単位認定基準, 卒業要件の認知度について】

「成績評価・単位認定の基準」と「卒業要件」に関する認知度のアンケート結果を表 2-6-9 に示す。アン

ケートの選択肢は「知っていた」、「おおむね知っていた」、「少し知っていた」、「知らなかった」の4つであり、表中のパーセンテージは「知っていた」と「おおむね知っていた」の合計である。

「成績評価・単位認定の基準」の認知度に関して、全コース平均値 94%であり、各コースのばらつきもない状況であった。

「卒業要件の認知度」に関して、全コース平均値で令和3年度から大きな変化がなく、各コースのばらつきも少ない状況であった。

表 2-7-9 成績評価・単位認定に関する基準，卒業要件の認知度に関するアンケート結果 (%)

	成績評価・単位認定基準		卒業要件	
	R4	R3	R4	R3
E	97	93	91	93
C	88	90	94	86
L	100↑	89	90	85
M	94	90	91	92
I	97	95	100↑	89↓
A	96	87	96	90
平均	94	91	94	90

【(設問 30-31) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度・達成度について】

本校が令和4年8月に文部科学省等が定めた制度「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム (リテラシーレベル)」に認定されたことに伴い、令和4年度のアンケートからその認知度と達成度に関する設問を追加した。アンケート結果を表 2-7-10 に示す。アンケートの選択肢はいずれも4つであり、表中のパーセンテージは認知度では「知っていた」と「おおむね知っていた」の合計、達成度では「よく理解できた」と「おおむね理解できた」の合計である。

「数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度」に関して、年度途中での認定となったこともあり全コース平均値 41%とかなり低調であった。本プログラムは今後も続くものであり、全学年に改めて周知する必要がある。

「数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの該当科目に対する達成度」に関して、全コース平均値で 77%であり、各コースのばらつきも少ない状況であった。

表 2-7-10 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの認知度・達成度に関するアンケート結果 (%)

	プログラム認知度		プログラム達成度	
	R4	R3	R4	R3
E	44	-	84	-
C	29 ^⓪	-	82	-
L	30 ^⓪	-	70	-
M	51 ^⓪	-	77	-
I	32	-	76	-
A	45	-	72	-
平均	41	-	77	-

【(設問 32) 意見・要望】

自由意見を数多くいただき回答していただいた卒業生には感謝申し上げます。ここで個別に取り上げることはしないが、デジタル化のさらなる推進を望む声など有意義な回答もあることから、是非ともアンケート結果を参照いただき、関係部署は今後の改善に活かしてもらいたい。

2.8 令和4年度の専攻科修了時アンケート

専攻科修了生に対するアンケートは平成14年度から実施している。過去5年間の実施状況を表2-8-1に示す。「生産情報システム工学専攻・機械系」については「M」と表記し、「同専攻・電気系」および「同専攻・電子情報系」はそれぞれ「E」、「I」と、また応用物質工学専攻、建築学専攻はそれぞれ「C」、「A」と表記する。

令和3年度の対象者は「M, E, I, C, A」の順で「7, 4, 6, 5, 7」であるが回答者は「6, 3, 7, 6, 7」であり、一部の修了生が所属の選択を間違えているが、本報告書では回答者数を分母としたパーセンテージの値で記す。専攻科学年定員は20名であるため、アンケート対象者は全専攻合わせて20~30名程度、専攻や系においては数名程度であることから一人のアンケートの有無でパーセンテージが大きく変動することに留意する必要がある。

本アンケートの回答率は令和2年度に11%と極端に悪かったが、令和4年度は100%の回答率となった。本アンケートは1月に電子メールでアンケートの依頼を行い、Google Formsを利用して実施している。実施方法に問題はない。

表2-8-1 過去5年間の専攻科修了時アンケートの実施状況（参考）

	実施時期	対象者数（名）	回答者数（名）	回答率（%）
平成30(2018)年度	平成31年1月	26	26	100
平成31(2019)年度 (令和元年度)	令和2年1月	30	21	70
令和2(2020)年度	令和3年1月	35	4	11
令和3(2021)年度	令和4年1月	27	23	85
令和4(2022)年度	令和5年1月	29	29	100

【進路に関する結果】

令和4年度の修了生数は29名で、その内訳は、M7名、E4名、I6名、C5名、A7名である。このうち、大学院進学予定者は4名、就職予定者が24名である(その他1名)。図2-7-1に平成30年度から令和4年度までの修了生数および大学院進学率の推移を示す。定員20名に対し、毎年29.4人(平成29年度~令和3年度の平均)の修了生を輩出している。進学・就職の割合は専攻や年度によって大きく異なり、令和4年度の全体の進学率はEとCを合わせての進学が4人となり、極端に低くなった。

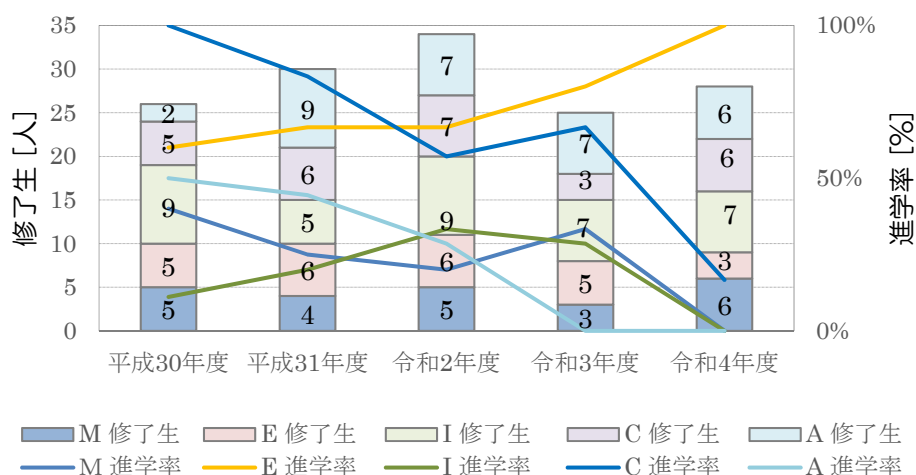


図2-7-1 専攻科修了生数と進学率

(平成30年度はアンケート回答(100%), 平成31~令和4年度は全数調査による)

【教育全般に関する設問】

一般教育に対する満足度は、回答者の97%が「満足」または「おおむね満足」と回答しており、例年と大きく変わらない。専門教育においても同様に「満足」または「おおむね満足」と回答した割合は93%であり、一般教育とともに現状において大きな問題はないと思われる。また、「教育・研究環境」については93%が「満足」または「おおむね満足」と回答している。「期待した実力がついたか」の設問に対して「満足」または「お

おおむね満足」と回答した割合が93%、「教育・研究によって満足できる成果を上げることができたか」の設問に対して「満足」または「おおむね満足」と回答した割合が97%であり、肯定的な回答の割合が高い。

【学習・教育到達目標に関する設問】

図2-8-2に学習教育到達目標に対する教育実状と到達度の結果、「身についた」「おおむね身についた」と回答した割合を示す。いずれの学習教育到達目標も高い値を示しているが、A3（コミュニケーション能力）のみ教育実状86%、到達度79%と他の到達目標より低くなっている。昨年度、『このようなコミュニケーション能力が低いことについては、過去5年間（参考データである令和2年を除く）は同じ傾向であり、カリキュラム改善、教育実状調査（教員・学生）など改善に向けた動きが必要と思われる。』とのコメントを付したが（本報告書8頁参照）、大きな改善が見られなかった。A3のコミュニケーション能力については、カリキュラム改善、教育実状調査（教員・学生）など改善に向けた取り組みに着手してほしい。

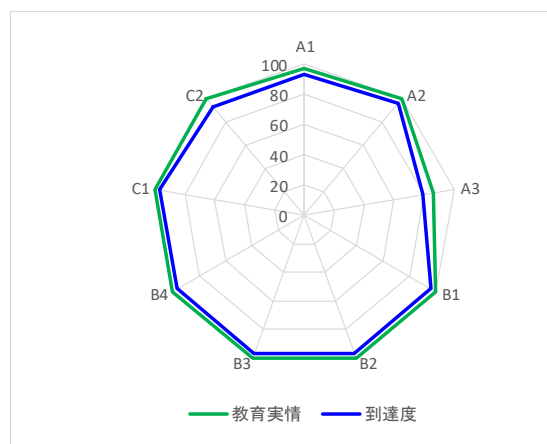


図2-8-2 学習教育到達目標に対する教育実状と到達度

【その他】

専攻科の少人数の授業形態に対しては100%が肯定的な回答であった。

TOEICに関する学習の支援体制は66%が肯定的な回答であった。他の回答が90%を超えているのに対し低調なものであった。この低調さは過去5年間（参考データである令和2年を除く）変わらない。実施している支援が希望者に対してのものであることを考慮しても、支援体制の改善に向けた動き（教員、学生への調査など）が必要と思われる。

シラバス利用は「利用した」、「それなりに利用した」が90%、単位の定めるところの授業時間以外で予習・復習は「十分できた」、「おおむねできた」が66%であり、93%が予習復習の成果がシラバス通りに評価されたと回答している。単位の定めるところの授業時間以外で予習・復習は昨年度の100%から大きくポイントを下げている、今後の動向を注視する必要がある。また、97%が教員の授業時間外での教科目に対する対応は良かったと回答し、良好な状況である。校外および各専攻での研究発表に関してもいずれも97%が有益、あるいは、満足と回答していた。

進路支援については「よかった」、「おおむねよかった」が97%と良好な状況である。

「専攻科の修了要件の認知度」に関する設問については、修了要件、修了要件の確認方法および成績評価・単位認定基準について97%の認知率（知らないのは学生数にして1名）であった。

ICT(情報通信技術)や図書・学術雑誌・視聴覚資料の活用状況については、いずれも86%が活用したと回答している。

なお、自由意見等のコメントについては、本年度はなかった。

【今後の課題】

令和4年度(2022年度)のアンケート回答率は100%であった。100%の回答を維持するように（再び回答率が11%になることの無いように）アンケートタイミングなどの工夫を行い続けてほしい。

学習・教育到達目標に関して、A3(日本語および外国語におけるコミュニケーション能力)のみ毎年低い評価となっており、改善に向けた行動を起こしてほしい。TOEICの学習支援に対する評価も低いことから、支援体制を考え直す必要があると思われる。単位の定めるところの授業時間以外で予習・復習は昨年度の100%から大きくポイントを下げている、今後の動向を注視する必要がある。

2.9 令和5年度の新入生アンケート

過去3年間に実施した新入生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-9-1の通りである。アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。今回の分析は、令和3年度における新入生を対象とし、以前にも同様の質問項目がある場合はその値を参照・比較する形で行った。本アンケートは3月の入学手続き説明会の際に配布・実施している。回答率は100%であった。実施方法については問題無いと思われる。なお、アドミッション・ポリシーに関するアンケートは教務主事室で実施しているため、アドミッション・ポリシーに関する結果・分析に関してはそちらを参照して下さい。

表2-9-1 新入生保護者および新入生アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R3(2021)年度	R3年3月	新入生208	208	100
R4(2022)年度	R4年3月	新入生209	209	100
R5(2023)年度	R5年3月	新入生205	205	100

* 前年度からの留年者等を除いた学生(新規入学生)を「新入生」と定義して、本アンケートの対象としている。

【(設問1) 有明高専を最初に知った時期】

表2-3-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。令和5年度では中学3年生で初めて有明高専を知った割合が中学校2年生より上回った。本校の広報、入試広報戦略の観点から、今後の動向を注視する必要がある。

表2-9-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R5	R4	R3
小学校入学前	2	1	2
小学1~3年	7	5	6
小学4~6年	24	29	29
中学1年	29	25	27
中学2年	18	24	23
中学3年	21	15	13
その他		0	0

【(設問2) 受験検討時期】

表2-9-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位2つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の差はあるが、受験の検討は年度によらず中学校2年生、3年生で70%を越えていることがわかる。中学校3年に受験検討する割合が増加する傾向がみとれ、本校の広報、入試広報戦略の観点から、今後の動向を注視する必要がある。なお、昨年度注視事項としていた『小学生の高学年からの受験検討』は以前のレベル(一桁台)に戻っている。

表2-9-3 有明高専への受験検討時期(%)

時期	R5	R4	R3
小学1~3年	1	0	0
小学4~6年	7	12	10
中1	19	13	16
中2	29	33	36
中3	46	41	38

【(設問3) 受験決定時期】

表2-9-4に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位2つの項目の数字を網掛けにしている。表2-9-4から、60%を超える入学生が、中学3年の第1~2学期に受験を決定していることが分かる。年度により多少の差はあるが、受験決定時期としては中3の2学期が最も多い。なお、高専の受験レベルは低くないことから、中学校でのある程度の学習レベルが要求される(調査書は中学1年生の成績が含まれる)ため、受験校決定というのが有明高専とどこを考えていたのか、例えば難関高等学校なのか他高専(例えば久留米高専や熊本高専など)なのかなどは本アンケート結果からは読み取ることができないのでアンケートの回答項目および内容の工夫、取り扱いに注意が必要

であると思われる。

表 2-9-4 有明高専受験を決定した時期 (%)

時期	R5	R4	R3
小学校	5	3	3
中 1	8	10	7
中 2 前半	7	7	7
中 2 後半	9	15	15
中 3 第 1 学期	30	32	25
中 3 第 2 学期	39	32	39
中 3 第 3 学期	2	2	4
その他		0	0

【(設問 4) 関心を持ったきっかけ】

表 2-9-5 に関心を持ったきっかけに関するアンケート結果を示す。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「家族・親族」、「オープンキャンパス・見学会」、「パンフレット」が例年同様上位を占めている。家族・親族は増加傾向が高止まりとなった。昨年度、注視を付言した「高専主催説明会」は以前のレベルに戻っている。

表 2-9-5 関心を持った経緯 (%)

項目	R5	R4	R3
高専主催説明会	14	34	15
体験入学	24	25	26
オープンキャンパス・見学会	48	39	52
学校行事 (高専祭・体育祭等)	17	14	15
高専体育大会	4	1	2
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	18	19	17
GCON, 高専女子フォーラム	1		
公開講座	3	1	1
出前授業・訪問実験	2	3	3
地域イベントなどでの科学体験教室	2	6	4
パンフレット	33	35	38
ホームページ	29	34	38
中学校主催説明会	10	10	16
家族・親族	60	66	63
中学教師	10	13	11
友人・先輩	18	18	21
塾	9	12	11
新聞・雑誌・高専に関する漫画などの情報紙(誌)	4	2	1
TV・ラジオ	2	1	1
動画サイト, SNS など	8	12	9
進学情報サイトなど	7	7	6
国公立高専合同説明会	0	0	3
その他	3	5	7

【(設問 5) 本校への志望を決めた理由】

表 2-9-6 に本校に志望を決めた理由に関するアンケート結果を示す。3 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。本年度から導入された項目であるため、初期値を示す。「自分の学びたいことを学べる」、「就職の実績がよい」、「特色のある授業, カリキュラムがある」が上位を占めているが、「自分の学びたいことを学べる」が抜け出て高い。

表 2-9-6 本校への志望を決めた理由 (%)

項目		R5
自分の学びたいことを学べる		79
特色のある授業，カリキュラムがある		30
就職の実績がよい		39
大学への進学実績がよい		12
専攻科に進学し，学士の学位を取得することができる		7
とりたい資格がとれる		12
この人に学びたいと思う教員がいる		1
寮がある		6
立地、通学環境がよい		3
施設や設備が充実している		22
校風が自分に合っている		24
両親、先生、友人から勧められた		17
学費があまりかからない（学費が安い，独自の奨学金がある）		4
入りたい部活動があるなど，課外活動に興味がある（ロボコン等含む）		5
海外留学、国際交流の機会がある		13
偏差値がちょうどよかった		8
なんとなく		1
その他		1

【(設問 6) 志願に影響を受けた方やアドバイスを受けた方】

表 2-9-7 に本校に志望を決めた理由に関するアンケート結果を示す。1 つのみ回答可としており，パーセンテージの高い項目上位 2 つの項目の数字を網掛けにしている。本年度から導入された項目であるため，初期値を示す。「保護者」，「先輩，友人」が上位を占めているが，「保護者」が抜け出て高い。

表 2-9-7 本校への志望を決めた理由 (%)

項目		R5
兄弟／姉妹		12
高専生		0
塾の先生		12
親戚		7
先輩，友人		13
中学校等在籍する学校の先生からのすすめ		8
特にアドバイスは受けていない		7
保護者		40

【(設問 7) 入学前に感じていた魅力】

表 2-9-8 に感じていた魅力に関するアンケートの結果を示す。令和 3 年度までは「志望動機や感じていた魅力」といった設問であったが，選択肢にも大きな変更はないことから，その設問と比較することとした。5 つまでを回答可としているため，結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し，パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが，「早期専門教育」，「就職の実績」，「将来の夢の実現」が例年同様上位を占めているが，「学びたいことが学べる」が 2 番目に多い項目となったことから今後の動向を注視する必要がある。また，昨年度注視を付言した「海外留学・国際交流」は以前のレベルに戻っている。

表 2-9-8 感じていた魅力 (%)

項目	R5	R4	R3
特色のある授業・カリキュラム	40	30	35
5年一貫教育	40	45	42
早期専門教育	60	69	59
就職の実績	45	54	52
大学進学実績	18	16	15
専攻科	8	10	8
JABEE 認定	2	1	1
資格取得	16	12	14
教員	1	1	1
寮	6	7	5
立地・通学環境	3	4	6
施設・設備	21	28	26
校風	24	18	21
学費	5	6	8
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	12	11	11
GCON, 高専女子フォーラム	0		
課外活動	5	4	4
学校行事 (高専祭・体育祭等)	13	14	10
将来の夢の実現	41	54	49
学びたいことを学べる	47	38	38
海外留学・国際交流	20	10	21
家族・親戚		15	20
中学教師		4	1
先輩・友人		4	3
塾		1	2
特になし	0		
その他	0	0	1

【(設問 8) 入学前に知りたかったこと】

表 2-9-9 に入学前に知りたかったことに関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「学則」、「授業」、「課外授業」、「留年・退学」が例年同様上位を占めている。例年、ほぼ変わらない数値で推移していることから、これらの点は発信していく必要があると考えられる。

表 2-9-9 入学前に知りたかったこと (%)

項目	R5	R4	R3
高校との違い	15	14	14
進路 (進学)	12	10	13
進路 (就職)	13	15	16
学費	9	11	7
学則	47	46	46
授業	46	51	69
インターンシップ	12	13	19
国際交流	17	21	22
寮	21	22	24
課外授業	28	35	36
留年・退学	30	30	39
知りたかったことは知ることができた (満足)	13	11	8
その他	0	1	1

【設問9）『高専』という選択』を読んだことがあるか。】

表2-9-10に高専機構が作成した冊子『高専』という選択』を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。昨年度も指摘したが、過去3年、読んだことのある新入生の割合が低調である。何らかのアクションが必要な時期である。

表2-9-10 『高専』という選択』を読んだことがあるか (%)

	R5	R4	R3
読んだ (読んだことがある)	22	13	12.5
読んでいない (読んだことはない、知らない)	78	87	87.5

【設問10)「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか】

表2-9-11に高専機構が作成した冊子「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるかの有無に関するアンケートの結果を示す。昨年度も指摘したが、過去3年、読んだことのある新入生の割合が低調である (令和3年度入学生は配布が行われていなかった)。何らかのアクションが必要な時期である。

表2-9-11 「キラキラ高専ガールになろう！」を読んだことがあるか (%)

	R5	R4	R3
読んだ (読んだことがある)	9	8	7
読んでいない (読んだことはない、知らない)	91	92	93
(入学生のうち女子学生の割合)	31	30	30

2.10 令和5年度の4年次編入生アンケート

過去3年間に実施した編入生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表2-10-1の通りである。令和4年度に新たに設けたアンケートで、アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。令和3年度までとは設問項目を大幅に変更したため、結果・分析は、以前にも同様の質問項目がある場合はその値を参照・比較する形で、質問項目がない場合は2または3年間の値を示す形で行った。本アンケートは3月の編入生説明会の際にGoogle Formアドレスを配布し、入学後、未回答が考えられる学生にリマインドメールを送っている。回答率は100%であった。Google Formでの実施は問題無いと思われるが、アドレスの配布だけでは回答率は悪い(50%)ためリマインドメールは欠かせない状況と思われる。

表2-10-1 4年次編入生アンケートの実施時期および回答者

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R3(2021)年度	令和3年7月	13	13	100
R4(2022)年度	令和4年3月	12	12	100
R5(2023)年度	令和5年3月	4	4	100

【(設問1) 所属コース】

エネルギー1名、応用化学0名、環境生命0名、メカニクス0名、情報システム1名、建築2名であった。4名へのアンケートであることから一人のアンケート回答でパーセンテージが大きく変動することに留意する必要がある。

【(設問2) 有明高専を最初に知った時期】

表2-10-2に有明高専を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。令和4年度、新たに設けた設問で、1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。最初に知った時期で最も多い時期は中学校の時期という結果で、昨年度と同じであった。

表2-10-2 有明高専を最初に知った時期(%)

時期	R5	R4
小学校入学前	0	0
小学生の時期	0	17
中学校の時期	50	50
高等学校1年生の頃	0	17
高等学校2年生の頃	25	17
高等学校3年生の頃	25	0
その他	0	0

【(設問3) 受験検討時期】

表2-10-3に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。令和4年度、新たに設けた設問で、1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。受験を検討し始めた時期で最も多い時期は高等学校1,3年生の頃であった。

表2-10-3 有明高専への受験検討時期(%)

時期	R5	R4
高等学校1年生の頃	50	17
高等学校2年生の頃	0	67
高等学校3年生の頃	50	17
その他	0	0

【(設問4) 受験決定時期】

表2-10-4に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。編入学年度によりばらつきが多く、令和4年度は4名の入学者であることから、傾向に関しては判断ができないところである。なお、パーセンテージが多い受験決定の時期が早期化の傾向があり、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-10-4 有明高専受験を決定した時期 (%)

時期	R5	R4	R3
高等学校 1 年生の頃	50	0	0
高等学校 2 年生の 1 学期	0	33	0
高等学校 2 年生の 2 学期	0	17	8
高等学校 2 年生の 3 学期	25	25	23
高等学校 3 年生の 1 学期前半	0	25	69
高等学校 3 年生の 1 学期後半 (締切時期)	25	0	0
その他	0	0	0

【(設問 5) 関心を持ったきっかけ】

表 2-10-5 に関心を持ったきっかけに関するアンケート結果を示す。令和 3 年度の「情報取得方法」から選択肢を大幅に増やした形であり、令和 3 年度までの「情報取得方法」と比較を行うこととした。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「ホームページ」、「高等学校の先生からのすすめ」が多い傾向がある。昨年度急伸した「パンフレット」、「先輩・友人からのすすめ」は低調であった。

表 2-10-5 関心を持った経緯 (%)

項目	R5	R4	R3
入学説明会 (本校主催)	0	8	
体験入学	25	17	
オープンキャンパス・見学会	25	8	0
学校行事 (ありタムフェスタなど)	0	17	
高専体育大会	0	0	
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	0	17	
公開講座	0	0	
出前授業・訪問実験	0	0	
地域イベントなどでの科学体験教室	0	0	
学校のパンフレット	25	42	4
学校のホームページ	25	42	38
高等学校における説明会	0	0	4
国公立高専合同説明会 (高専機構主催)	0	0	
新聞・雑誌・高専に関する漫画などの情報紙 (誌)	0	8	
テレビ・ラジオ	0	8	
動画公開サイト (YouTube など), SNS	25	17	
家族・親族からのすすめ	0	33	
高等学校の先生からのすすめ	50	42	50
先輩, 友人からのすすめ	0	42	4
塾の先生からのすすめ	0	0	0
インターネットの進学情報サイトやニュース記事		8	
その他	0	8	0

【(設問 6) 本校への志望を決めた理由】 (複数回答可)

表 2-10-6 に志望を決めた理由に関するアンケート結果を示す。令和 2 年度以前は「入学の決め手」の設問であったが、令和 3, 4 年度では選択肢を大幅に増やし「編入学の動機」として実施した。令和 5 年度では、令和 3, 4 年度の「編入学の動機」を設問 6 の「本校への志望を決めた理由」と設問 8 の「入学前に感じていた魅力」とで分割あるいは重複した内容でアンケートを実施した。表 2-10-6 中での年度の比較では、令和 5 年の内容にしたがって令和 3, 4 年度の「編入学の動機」データを分割あるいは重複して示している。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。「自分の学びたいことが学べる」が最も多い結果となった。また、令和 3 年度以前ではパーセンテージが高い傾向にあった「学費があまりかからない」は昨年度に続き今年度もゼロであった。今後の動向を注視する必要がある。

表 2-10-6 有明高専への志望を決めた理由 (%)

項目	R5	R4	R3
自分の学びたいことが学べる	75	42	
特色のある授業・カリキュラム	25	25	
就職の実績がよい	25	67	24
大学への進学実績がよい	50	33	9
専攻科へ進学し、学士の学位を取得することができる	0	8	9
とりたい資格が取れる	25	0	
この人に学びたいと思う教員がいる	0	0	
寮がある	0	0	12
立地、通学環境がよい	25	8	3
施設や設備が充実している	0	0	0
校風が自分に合っている	0	8	6
家族、親戚からのすすめがあった	25	0	
先輩、友人からのすすめがあった		17	
高等学校の先生からのすすめがあった		25	12
塾の先生からのすすめがあった		8	
学費があまりかからない	0	0	21
入りたい部活動があるなど、課外活動に興味がある	0	0	
海外留学、国際交流の機会がある	0	58	
偏差値がちょうどよかった	0		
なんとなく	0		
その他	0	0	3

【(設問 7) 受験を決めるにあたって、最も影響を受けた方やアドバイスを受けた方】

表 2-10-7 に本校への受験を決めるにあたって、最も影響を受けた方やアドバイスを受けた方に関するアンケート結果を示す。1 つのみ回答可としており、パーセンテージの高い項目上位 1 つの項目の数字を網掛けにしている。本年度から導入された項目であるため、初期値を示す。「高等学校等在籍する学校の先生からのすすめ」が上位を占めている。

表 2-10-7 本校への志望を決めた理由 (%)

項目	R5
保護者	0
兄弟／姉妹	0
親戚	0
高等学校等在籍する学校の先生からのすすめ	75
先輩、友人	25
塾の先生	0
特にアドバイスは受けていない	0
その他	0

【(設問 8) 入学前に感じていた魅力】

表 2-10-8 に入学前に感じていた魅力に関するアンケート結果を示す。令和 2 年度以前は「入学の決め手」の設問であったが、令和 3, 4 年度では選択肢を大幅に増やし「編入学の動機」として実施した。令和 5 年度では、令和 3, 4 年度の「編入学の動機」を設問 6 の「本校への志望を決めた理由」と設問 8 の「入学前に感じていた魅力」とで分割あるいは重複した内容でアンケートを実施した。表 2-10-8 中での年度の比較では、令和 5 年の内容にしたがって令和 3, 4 年度の「編入学の動機」データを分割あるいは重複して示している。5 つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度によって多少の差があるが、「就職の実績」、「自分の学びたいことが学べる」が例年同様上位を占めている。また、昨年度注視を付言した「ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン」、「海外留学・国際交流」は以前のレベルに戻っている。

表 2-10-8 入学前に感じていた魅力 (%)

項目	R5	R4	R3
特色のある授業・カリキュラム	25	25	
理工系の5年一貫教育	50	17	
早い時期からの専門教育	25	17	
就職の実績がよい	50	67	24
大学への進学実績がよい	75	33	9
専攻科に進学し学士の学位を取得できる	0	8	9
とりたい資格が取れる	25	0	
この人に学びたいと思う教員がいる	0	0	
寮がある	0	0	12
立地・通学環境がよい	25	8	3
施設や設備が充実している	0	0	0
校風が自分に合っている	0	8	6
両親・先生・友人から勧められた	0	17	
学費があまりかからない	0	0	21
ロボコン・デザコン・プロコン・プレコン	0	58	
GCON, 高専女子フォーラム	0		
入りたい部活動がある(課外活動への興味)	0	0	
学校行事(ありタムフェスタ)に興味がある	0	8	
自分の学びたいことが学べる	50	42	
海外留学・国際交流の機会がある	0	58	
特になし	0	0	

【(設問9) 入学前に知りたかったこと】

表 2-10-9 に入学前に知りたかったことに関するアンケートの結果を示す。令和4年度新たに設けた設問で、5つまでを回答可としているため、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位3つの項目の数字を網掛けにしている。2年連続で高い傾向を示しており「進路(進学について)」「進路(就職について)」「学則について」「授業について」が高い項目であった。これらは発信していく必要があると考えられる。

表 2-10-9 入学前に知りたかったこと (%)

項目	R5	R4
大学(短期大学)との違いについて	25	17
進路(進学率, 進学先)について	75	8
進路(就職率, 就職先)について	50	25
学費について(奨学金や学費の減額・免除の制度)	0	8
学則について	50	25
授業について(時間割, 授業科目, 実験・実習, 課題)	50	58
インターンシップについて	25	17
国際交流活動について(留学制度, 外国人学生の受入れ)	0	8
寮について(寮の規則, 寮の費用, 雰囲気など)	0	8
課外活動について(部活動の種類, 土日の活動)	25	8
留年, 退学について	25	25
知りたかったことは知ることができていた	0	17
その他	0	8

【(設問10) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-10-10 に「アドミッション・ポリシーを知っているか」に関するアンケート結果を示す。令和4年度から設けた設問で、1つのみ回答可としている。75%が「知っている」と回答した。

表 2-10-10 アドミッション・ポリシーを知っているか (%)

回答項目	R5	R4
知っている	75	92
知らない	25	8

【(設問 11) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-10-11 にアドミッション・ポリシーを知っている編入生に対する自己評価に関するアンケート結果を示す。令和 4 年度から設けた設問で、複数回答可（すべてを満たす場合は全てに印を付す）としている。結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示している。アドミッション・ポリシーを「知らない」という学生がいることを考慮すると、令和 5 年度は全項目で 50%以下の回答であり、問題である。今後の状況は特に注視をしておく必要がある。

表 2-10-11 アドミッション・ポリシーを満足しているかの自己評価 (%)

回答項目	R5	R4
ものづくりに興味がある人	33	82
チャレンジ精神がある人	33	82
他の人と協力して作業ができる人	67	82
物事を粘り強くやり続けることができる人	67	73
社会に貢献したいと考えている人	33	82

2.1 1 令和5年度の専攻科入学生アンケート

専攻科入学生に関するアンケートの実施時期および回答者数等は表 2-11-1 の通りである。令和4年度に新たに設けたアンケートで、アンケート内容は高専機構の入学動機アンケートを基本としている。実施2年目のため2年の値を示す形で示す。本アンケートは3月に案内メールで依頼し、3月31日までに google form を用いて実施している。入学後、専攻科1年生に向けてリマインドメールを回答率は83.9%であった。Google Formでの実施は問題無いと思われるが、アドレスの配布だけでは回答率は悪い(59%)ためリマインドメールは欠かせない状況と思われる。

表 2-11-1 専攻科入学生アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
R4(2022)年度	R4年3月	31	26	84
R5(2023)年度	R5年3月	29	28	97

【(設問1) 有明高専専攻科を最初に知った時期】

表 2-11-2 に有明高専専攻科を最初に知った時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。高専入学後初期(1~3年生)に一番多く認知されていることがわかる。

表 2-11-2 有明高専専攻科を最初に知った時期(%)

時期	R5	R4
小学校入学前	4	0
小学生の時期	11	4
中学生の時期	36	38
高専1~3年	39	50
高専4~5年	11	8

【(設問2) 受験検討時期】

表 2-11-3 に受験検討時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。令和4、5年とも約60%の学生が高専4年生から5年生の頃に受験を検討したことがわかる。

表 2-11-3 有明高専専攻科への受験検討時期(%)

時期	R5	R4
高専1~2年前期	14	15
高専2年後期~3年	18	27
高専4~5年	64	58
その他	4	0

【(設問3) 受験決定時期】

表 2-11-4 に受験決定時期に関するアンケートの結果を示す。1つのみ回答可としている。パーセンテージの最も高い項目の数字を網掛けにしている。80%の学生(令和4年度は65%)が高専4年後期までに受験を決定していることが分かる。令和4年度は5年生前期中での決定が最も多いことから、専攻科受験の決定が早期化する傾向にあるのか、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-11-4 有明高専専攻科受験を決定した時期(%)

時期	R5	R4
高専1~2年前期	7	8
高専2年後期~3年	4	12
高専4年前期	14	19
高専4年後期	50	27
高専5年前期	21	35
高専5年後期	0	0
その他	4	0

【(設問 4) 入学の動機 (本校の魅力)】

表 2-11-5 に入学の動機に関するアンケートの結果を示す。5 つまでを回答可としており、結果は母数に対する回答数のパーセンテージで示し、パーセンテージの高い項目上位 3 つの項目の数字を網掛けにしている。年度により多少の変化はあるものの、パーセンテージが高い順に「学費」と「学位」であることが分かる。

表 2-11-5 入学の動機 (本校の魅力) (%)

項目	R5	R4
特色のある授業・カリキュラム	11	27
知的欲求	11	23
専門教育	21	38
就職の実績	36	31
大学院進学実績	36	35
学士の学位取得	39	54
資格取得	0	4
教員	18	8
立地・通学環境	14	12
施設・設備	0	8
学費	64	65
将来の夢の実現	21	8
学びたいことを学べる	11	23
海外留学・国際交流	14	4
家族・親戚	14	38
教員	29	4
先輩・友人	7	12
特になし	0	0

【(設問 5) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-11-6 に「アドミッション・ポリシーを知っているか」に関するアンケート結果を示す。令和 4, 5 年度ともに 4 分の 1 程度が知らない状況であり、改善の余地があり、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-11-6 アドミッション・ポリシーを知っているか (%)

項目	R5	R4
知っている	75	77
知らない	25	23

【(設問 6) アドミッション・ポリシーについて】

表 2-11-7 にアドミッション・ポリシーを知っている人のうちの自己評価に関するアンケート結果を示す。5 つまでを回答可としており、パーセンテージが 60% 以上の項目の数字を網掛けにしている。「多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人」「国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人」は 50% を割っており、これらに関しては改善が必要であり、今後の動向を注視する必要がある。

表 2-11-7 アドミッション・ポリシーを満足しているかの自己評価 (%)

	R5	R4
幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人	76	70
専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人	86	70
自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人	57	55
多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人	48	65
国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人	48	15

3. あとがき

本校の教育システムならびに教育プログラムを継続的に改善・向上するために、本委員会が主体となってアンケートを実施し、集計・分析、報告活動を展開してきました。「本調査報告書」は「まえがき」あるようにスピーディにアンケート結果を報告するように努めております。本調査報告書が、本校における教育プログラムのPDCAの一助として活用していただけますと幸いです。なお、本アンケート報告書は、2年分の本科卒業生、専攻科修了生、入学生（本科新入生、編入生、専攻科生）と教職員に対するものであり（令和3年度に実施したアンケート結果は令和4年6月の運営会議で報告済み）、令和4年1月から令和5年3月までに実施したアンケートの報告書になります。

1. 令和3年度、5年生卒業時アンケート

令和4年3月の卒業生は、本校が平成28年度に創造工学科に改組した第2期の卒業生になり、第1期生との比較が基本となります。

「教育全般（教育内容・教育環境）」、「学習・教育到達目標の達成度」では、「おおむね満足している」という評価が90%以上でした。令和2年度はICT環境・活用が68%でしたが、大きく改善した形です。今後を注視して去る必要があります。

「学習・教育到達目標」では、「おおむね身に付いた」という評価がほとんどの項目で90%以上でしたが、A-3の「コミュニケーション能力」のみが15ポイント程度低い（77%）結果となりました。今後を注視して去る必要があります。

「その他」では、「授業改善アンケート」による改善が10ポイント改善した（87%となった）ことを除き令和2年度と大きな変動がない状況です。また、令和3年度新たに実施したアンケートでは「TOEIC関連の授業が役に立ったか」が「おおむね役にたった」が72%であり、他の項目に比べて低い値であったことから、今後の動向を注視する必要があります。

また、コースによりばらつきも生じている項目もあることから、今後継続していくようであれば学校としての改善が必要となる項目の種となりますので、今後を注視していく必要があります。

2. 令和3年度、専攻科修了時アンケート

令和2年度はアンケートの回収率が11%ときわめて悪い状況でしたが、令和3年度はメールを複数回（リマインド）送信する、早い時期から実施するなどの方法により、回収率は85%と改善しました。今後も引き続きこのような方法を実施していく必要があると考えています。

「教育全般（教育内容・教育環境）」では、「おおむね満足している」という評価が90%以上でした。

「学習・教育到達目標」では、「おおむね身に付いた」という評価がほとんどの項目で90%以上でしたが、A-3の「コミュニケーション能力」のみが15ポイント程度低い（74%）結果となりました。このA-3のみが低い状況は過去5年間（参考データである令和2年度を除く）同じであり、カリキュラム改善、教育実状調査（教員・学生）など改善に向けた動きが必要と思われます。

3. 令和4年度、本科新入生アンケート

令和3年4月の新入生アンケートでは、例年と大きく変動する項目はありませんでした。本アンケート結果は教務と連携しており令和5年度入試に活かされることを強く望みます。

4. 令和4年度、4年次編入学生アンケート

令和3年4月の4年次編入学生アンケートでは、例年と大きく変動する項目はありませんでした。なお、注視項目としては、有明高専受験を決定した時期の早期化、本校に関心を持った経緯の多様化があげられます。また、編入学の動機の項目では「就職実績」、「各種コンテスト」、「国際交流」が急伸している反面、例年上位の「学費があまりかからない」が0%となっています。本アンケート結果が令和5年度入試に活かされることを強く望みます。

5. 令和4年度、専攻科入学生アンケート

令和4年度に新たに設けたアンケートです。今後の専攻科入試の参考にしていただければと思います。なお、アドミッション・ポリシーに関しては改善の余地がある状況です。

6. 教職員アンケート

平成30年に実施された「教育理念等の認識度調査」以来の教職員へのアンケートになります。

教育理念、養成すべき人物像、学習・教育到達目標、3つのポリシー、教育上の目的の周知では「教育理念」、「養成すべき人物像」、「準学士課程の学習・教育到達目標」は80%を超えており良好な状態と考えられる。「学習・教育到達目標（準学士、専攻科課程）」、「3つのポリシー（準学士、専攻科課程）」、「教育上の目的（創造工学科、各系、各コース、専攻科課程）」では80%未満であり、教職員に対するこれらの項目の周知において改善が必要である。

「ICT環境の満足度」「図書館利用の有効活用」はともに70%であった。

「本校の収支に関する方針・計画」に関連するアンケートでは「知らない」「わからない」が70%近くあり、情報開示等の改善が必要である。改善計画書では令和4年度の決算、令和5年度の予算案が運営会議に提出、説明がなされるとの報告があることから、改善を期待したい。

「教員と事務職員等の役割分担」は適切であるが65%程度であり、教員と事務職員の連携は、設置基準改正でも重要視されていることから、問題点の把握と改善が速やかに行われることが期待される。

7. 令和4年度、5年生卒業時アンケート

令和5年3月の卒業生は、本校が平成28年度に創造工学科に改組した第3期の卒業生になり、3年間での比較ができるようになった項目が出てきました。

「教育全般（教育内容・教育環境）」、「学習・教育到達目標の達成度」では、「おおむね満足している」という評価が全コースの平均で概ね85%以上でした。なお、年度による変動が大きい項目は「ICT環境・活用」です。今後を注視していただく必要があります。

「学習・教育到達目標」では、「おおむね身に付いた」という評価がほとんどの項目で3年間、全コース平均で85%以上でしたが、A-3の「コミュニケーション能力」のみが年度経過とともに下落し、20ポイント程度低い（63%）結果となりました。A-3の「コミュニケーション能力」については今後を注視していただく必要があります。

「その他」の項目では、「TOEICに関する授業の役立ち」を除き、全コース平均値で概ね80%以上でした。「TOEICに関する授業の役立ち」は非常に悪い状況ですので、今後の動向を注視すると同時に、学校で実施しているTOEIC関連の試験結果を活用、総括して、教務主事室主導で英語関連の教員と連携を図り今後の対応を改めて検討することが望まれる。令和4年度から本校が認定された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関するアンケートを実施したが、認識度が全コース平均で40%台であった。年度途中での認定であったが、認知度を上げる方策が必要と思われる。

また、コースによりばらつきも生じている項目もあることから、今後継続していくようであれば学校としての改善が必要となる項目の種となりますので、今後を注視していく必要があります。

8. 令和4年度、専攻科修了時アンケート

令和4年度(2022年度)のアンケート回答率は100%であった。100%の回答を維持するように（再び回答率が11%になることの無いように）アンケートのタイミングなどの工夫を行い続けてほしい。

「教育全般（教育内容・教育環境）」に関する設問では満足度が90%以上と高く、問題ない状況と考えられます。

「学習・教育到達目標」に関する設問では、A3(日本語および外国語におけるコミュニケーション能力)のみ毎年低い評価となっており、令和4年度修了生でも同様の結果であったことから、カリキュラム改善、教育実状調査（教員・学生）など改善に向けた取り組み行動に着手してほしい。

その他の項目に関しては、「TOEICの学習支援」、「単位の定めるところの授業時間以外での予習・復習」を除き、概ね90%を越えており良好な状態と考えられる。「TOEICの学習支援」は、毎年低い評価となっており、令和4年度修了生でも同様の結果であったことから、支援体制の改善に向けた動き（教員、学生への調査など）が必要と思われる。「単位の定めるところの授業時間以外での予習・復習」は昨年度の100%から大きくポイントを下げているため、今後の動向を注視する必要がある。

9. 令和5年度、本科新生アンケート

令和5年4月の新生アンケートでは、例年と大きく変動する項目はありませんでした。本アンケート結果は教務と連携しており令和6年度入試に活かされることを強く望みます。昨年度も指摘しましたが、『「高専」という選択』『キラキラ高専ガールになろう!』はほとんど読まれておらず、対応が必要と思われる。

10. 令和5年度、4年次編入学生アンケート

令和5年4月の4年次編入学生アンケートでは、編入学性が4名であり、例年に比べ変動が大きくなることが予想されましたが、大きく変動をした項目は「有明高専受験を決定した時期」の早期化のみで、他の項目では大きな変化は見られませんでした。なお、令和4年度のアンケートで急伸していた「編入学の動機」の項目の「各種コンテスト」、「国際交流」は令和3年度レベルに下がっていました。また、「学費があまりかからない」が令和4年度に引き続き0%となっています。

アドミッション・ポリシーに関しては改善の余地がある状況です。また、自己評価では令和4年度に比べ低いレベルであることから、今後の動向を注視し、適切な対応が必要と思われます。

本アンケート結果が令和5年度入試に活かされることを強く望みます。

11. 令和5年度、専攻科入学生アンケート

令和4年度に新たに設けたアンケートで、令和4年度、令和5年度との比較が基本となります。2年間のデータで大きく変動した項目は「受験決定時期」の早期化のみで、今後の動向を注視する必要があります。今後の専攻科入試の参考にしていただければと思います。

なお、アドミッション・ポリシーに関する項目では今後の動向を注視する必要があります。アドミッション・ポリシーの認知度に関しては改善の余地がある状況です。アドミッション・ポリシーの各項目の自己評価では「多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人」「国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人」が認知者の50%を割った状態であることから、改善が必要と考えられます。

本調査報告書は、令和3年度と4年度の卒業生・修了生、令和4年度と5年度の入学生（本科1年生、4年次編入学生、専攻科1年生）、教職員に対するアンケート報告書であり、卒業生・修了生の意識や質保証、次年度の入学者選抜といったスピーディな対応が望まれるものを運営会議に報告するとともに広く一般に公開するものです。令和2年度、令和3年度から新たに行ったアンケートが多くありますので、アンケート内容をどのように活用・運用するかは難しいところですが、本校の関連部署等が改善の意識をもって積極的に「本調査報告書」に目を通していただき、本校の教育システム・プログラムの継続的改善・向上の一助として活用していただくことを切に望みます。本調査報告書において、わかりにくい表現等ありましたら本委員会にお知らせください。また、活用できる質問項目を積極的にお教えいただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、各種アンケート調査にご協力・ご尽力、ならびにご支援頂きました関係各位・各組織に深く感謝の意を表します。

自己点検・評価委員会

委員長 小林 正幸（創造工学科）

尋木 信一・坂本 武司・松野 良信・岩下 勉（創造工学科）・竹内 伯夫（一般教育科）

事務担当 七田 忠資（総務企画係）